

第2回 仙台市総合計画審議会議事録

日 時	平成21年11月20日(金) 18:30～21:10
会 場	仙台市役所2階 第一委員会室
出席委員	足立千佳子委員、阿部一彦委員、阿部初子委員、石川建治委員、 内田幸雄委員、江成敬次郎委員、大草芳江委員、大滝精一委員、 大村虔一委員、岡本あき子委員、小野田泰明委員、菊地昭一委員、 佐竹久美子委員、菅井邦明委員、鈴木勇治委員、鈴木由美委員、 高野秀策委員、西大立目祥子委員、西澤啓文委員、針生英一委員、 樋口稔夫委員、増田聡委員、間庭洋委員、水野紀子委員、宮原育子委員、 柳生聡子委員、柳井雅也委員 [27名]
欠席委員	小松洋吉委員、庭野賀津子委員、山田明之委員 [3名]
事務局	瀬戸企画市民局長、伊藤企画市民局次長、佐々木総合政策部長、 折田総合計画課長、金集総合計画課主幹、柳津総合計画課主幹
議 事	1 開会 2 議事 (1) 起草委員の選出について (2) 新総合計画の基本的考え方について (3) 総合計画における都市像について (4) 前回の審議会での要請資料について (5) 新総合計画策定にあたっての意見交換 (6) その他 3 閉会
配付資料	1 新総合計画策定の基本的考え方(案) 2 本市の総合計画の沿革と都市像 3 政令指定都市の基本構想 4 宮城県内のNPOの活動状況 5 仙台市ホームページ掲載データ等リンク集 6 仙台市基本計画(仙台21プラン)における重点事業等の実施状況 7 市民の声(平成20年度広聴相談事業年報)(抜粋) 8 指標による政令指定都市比較 9 指標から見た仙台市の歩み 10 新総合計画策定作業マップ 11 基本構想策定にあたっての論点(たたき台)

1 開会

大村虔一会長

まだお見えになっていない方がいらっしゃるようでございますけれども、定刻を過ぎましたので、ただいまから第2回仙台市総合計画審議会を開催いたしたいと思います。

最初に、本日の議事録署名委員の指名でございますが、前回は足立委員をお願いをいたしましたので、五十音順でということで阿部一彦委員、よろしくお願いいたします。

続いて、議事に入ります前に定足数の確認を行います。

事務局のほうからご報告をお願いいたします。

金集総合計画課主幹

最初に、前回の審議会にご都合により出席されなかった委員の方をご紹介させていただきます。

小野田泰明委員でいらっしゃいます。東北大学の教授でいらっしゃいます。

江成敬次郎委員でいらっしゃいます。東北工業大学の教授でいらっしゃいます。

次に、定足数ですが、本日は26人の方がご出席で定足数を満たしていることをご報告いたします。

続いて、資料の確認をさせていただきます。

お座席に座席表、次第、資料一覧、資料が1から11まで、前回事務局でお預かりした資料と議事録をファイルにつづったものを置かせていただいております。

資料に不足などはございませんでしょうか。

最後に、本日はこのような時間での開催となりましたので、軽食を用意させていただいております。まだおとりになられていない方につきましても、議事の前半は事務局からの説明が中心になるかと思いますので、おつまみいただきながらお聞きいただければと思います。

大村虔一会長

はい、ありがとうございます。

2 議事

(1) 起草委員の選出について

大村虔一会長

それでは、議事に入ります。

本日の議事は、その他も含めまして6つでございます。

まず第1点目、起草委員の選出についてです。

前回の審議会で、基本構想を議論するのにたたき台をつくっていただく、起草委員会を設けることとさせていただきました。

その委員の方ですが、副会長と相談をいたしまして、次の8名の方をお願いをしたいと思います。

江成委員、大滝委員、小野田委員、小松委員、西大立目委員、庭野委員、間庭委員、

柳井委員の 8 名の方でございますが、いかがでございましょうか。

特にお申し出がなければお引き受けいただいたものと考えてよろしゅうございますか。

(はいの声あり)

大村虔一会長

ひとつどうぞよろしくお願い申し上げます。

起草委員会には、委員長を務める方を決めなきゃいけないわけですが、起草委員の互選となりますので、第 1 回目の起草委員会でお決めいただくことになります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

(2) 新総合計画の基本的考え方について

大村虔一会長

では、次に「(2) 新総合計画策定の基本的考え方について」に移ります。

事務局から資料で案が示されてございますので、事務局の方からご説明をいただきたいと思います。

どうぞ。

折田総合計画課長

それでは、資料 1 に基づきましてご説明させていただきます。

折田総合計画課長

資料 1、新総合計画策定の基本的な考え方でございますけれども、まず策定の趣旨でございます。

なぜ策定をしなければいけないかということでございますけれども、まず基本計画につきましては平成 22 年度で計画期間が終わるということになってございますので、新しい基本計画というものを策定する必要がございます。

また、基本構想につきましては、前回ご説明いたしましたとおり 21 世紀中葉までの本市の都市像というものを示しておりますけれども、今の人口減少の状況、それから少子高齢化の加速的な進展というようなものを考えますと、これまでの想定を超える速さで社会情勢が変化していると。前回の基本構想が想定していた時代の転換点というのを今まさに迎えている状況であるという考えに基づきまして、こちらについても議論の対象にしたいと考えております。

それから 2 番、策定の基本的な考え方でございますけれども、まず構成については基本構想、それからそれを推進するための計画、基本計画と実施計画を予定しておりますけれども、今と同じような構成でつくっていきたいと考えております。

それから、2 番目の目標年次についてでございますが、基本構想につきましては、目標年次を今の基本構想と同じ 21 世紀中葉と、2050 年ごろを目処に作成をお願いできればと考えております。理由といたしましては、人口減少等これから大きく社会のあり方が

変わっていきますけれども、高齢人口の増加というものが恐らく25年ごろには落ち着いていくと、今の急激な社会の変化というのがある程度定常状態になると予想される21世紀中葉、それに向けて今何をすべきかという観点からご議論いただければと考えております。

それから、基本計画でございますが、その2050年ごろを目指した基本構想の中で、余りにも長い期間でございますので、ある程度実効性を担保するという観点から、現行と同じ、大体10年程度と考えておりましたけれども、今回は2011年から2020年ということで、計画期間10年ということでお願いできればと考えております。

それから3番に移りまして、策定に当たりましての基本的な視点、これからどういった観点で基本構想及び基本計画についてご議論をいただくかという点についてまとめておるものでございますけれども、まず最初に戦略性のある計画をお考えいただきたいと考えております。

これまでの基本構想で4つの都市像を掲げておりますけれども、こういった厳しい状況乗り越えていく中で、個々の施策を進める際に、我々仙台市職員それから市民がよりわかりやすい形でよって立つ指針というものをお示しいただければと考えております。

市の施策にとりましても、これから選択と集中ということを基調にした物事の考え方をやっていく必要があると思いますので、施策の優先順位というのが透けて見えるような都市像をお考えいただければと考えております。

それから、裏面を見ていただきまして、計画をつくっていくに当たりまして、実効性をどう担保していくのかということは非常に重要な観点でございますけれども、現行の計画もフォローアップというものをある程度意識した形で組み立てられておりますけれども、基本計画を中心にどういったフォローアップのあり方をビルトインさせていくのかという観点で、そういった仕組み、どういった仕組みがあり得るのかという点もご議論いただきたいと考えております。

あと、次の2つに関しては当然の前提でございますけれども、仙台の特性や強みを生かして、仙台ならではの計画づくりというものをお願いしたいと考えておりますとともに、行政計画ではございますけれども、専門用語を並べ立てるような形ではなく、なるべく簡素で明確な表現、市民にわかりやすい計画というものをつくっていただけたらなと考えております。

事務局からの説明は以上でございます。

大村虔一会長

ただいまの説明に対しまして何かご質問等ございましたらばどうぞ。

いかがですか。策定の基本的な考え方案でございますが、何か、これはどうかというようなことはございますか。

どうぞ。

大滝精一委員

この資料1の一番下のところに「戦略性のある計画をめざす」という話があって、こ

れは、そのこと自体はよく理解できるんですけど、戦略性というのは、ここにも書いてありますように選択と集中をするということを意味していて、これまでのように行政が非常に幅広く、かなり広い領域にわたっていろんなことをやっていくということ、ある意味で、捨てていくという言い方はちょっときついかもしれないんですけど、要するに何をやれて何をやれないかということのメリハリをつけていくという、そういうことになると思うんですね。

そのことは行政としてはすごく勇気が要ることで、少なくともこれを中心にとかここを優先順位を立ててやっていくということを示して、それを市民に理解していただくということは、言うは易く行うは難しみたいなことが実際には出てくるんじゃないかと思うんですけども、そののところはどういうふうに我々として考えていったらいいかという、もちろん私たちもそういうことをやらないといけないということは、一般論としては理解できるんですけども、どこまでそういうことをしっかりと踏み込んで総合計画に書き、なおかつ市民の理解を得ていくのかというのは易しいことじゃないというふうに私は思っているんですけども。その辺はどうでしょうか。

大村虔一会長

いかがでしょうか。

事務局のほうから何かありますか。

折田総合計画課長

先生のおっしゃるとおり、非常に難しいことをお願いしているという認識は持っております。戦略性の裏側にある総合性というのをいかに担保していくのかといった視点、それは行政は市民の生活を支えるという一番基本的な任務がございますので、それとの兼ね合いでとは言いながら、もう先生もご案内のとおり、こういった厳しい状況の中で、どうしても今までと同じようなあり方ではこの時代を生き抜いていけないだろうという認識に立っております。

いろんなとらえ方があるかと思いますが、これからは右肩上がりの時代ではない、右肩上がりの時代に合ったプラスの分配をどうしていくのかという政治や行政のあり方ではなくて、右肩下がりの中でそのマイナスの分配をどのようにやっていくのか。言葉はいろいろあるかと思いますが、痛みであるとか負担であるとか、そういったものを我々分かち合いながらでないと、これから厳しい局面を乗り越えていけないのではないのかという認識がございますので、その兼ね合いで、お答えにならないかもしれませんが、総合性といったところは当然中心になると思うんですが、ここであえて戦略性という言葉を出して、より選択と集中ということを意識しながらご議論いただければというお願いを込めて書かせていただいております。

大村虔一会長

今のことについて、どなたかご意見ございませんか。

私の意見を少し言わせてもらっていいですか。

仙台のこれから先のことを考えると、東北が置かれている状況がどう変わっていくかという中で仙台がどう動いていくのかが、恐らく今までよりは際立った変化が出てくると思っております。置かれた状況は大変シビアですから、仙台がやらなきゃいけないことは余り選択の余地がなくて、どんどん押しつけられていくというようなことが起きてくる可能性があるのではないかと考えております。そういう意味では、そういう問題をどう解くかというふうに考えるときに、戦略的に考えるよりも、総合的に見てどうハンドリングするかという視点が、欠かせなくなる局面が多くなると思います。

そうかといって、総花的にみんな並べてしまったという従来の計画に対する批判がここに込められていると思いますけれども、基本構想レベルでは全体にバランスを見ることが、大滝先生のお話のように大切で、その中でどういう手を打つか。基本計画では少し戦略的側面を意識してかかるくらいの扱いでどうでしょうか。実際はかなり難しい注文を受けているというふうに私は思っておりますけれども。

折田総合計画課長

基本構想というレベルでは、先生のおっしゃるとおりなかなか難しいということは我々としても承知はしておりますところではございますけれども、総合性という中にあって、これは希望でございますけれども、仙台がこれからどういう道を歩んでいくのかということを市民の皆様を示すということが、この都市像をつくっていく意味があるとするのであれば、例えば今までの4つの都市像、現行の基本構想は10年前の審議会委員の先生方が議論の上につくられた非常に素晴らしいもので、今の社会経済情勢を見通していらっしゃるものだと思いますけれども、なかなか市民の皆さんから見たときに、仙台市はこれからどういう方向を目指すんだということを説明する際に、4つという数がどう映るのかというところは、我々行政官、今、中で仕事をしている際にも、その4つを常に頭に置きながら仕事ができているかという、なかなかそれもできていないというのが現実でございます。

それで、ここを書かせていただいた思いとしては、市民の皆さんにとっても仙台市役所で働く職員にとっても、仙台は一言で言うところのことだと、こういう道を目指すんだということが、もし見出せるのであれば、それが望ましいのではないかという思いで書かせていただきましたが、なかなか市役所が持っているミッションということを考えると、先生おっしゃるとおりその基本構想レベルでいろんな選択をしていくということは難しいというご事情はよくわかりますので、そこは基本構想レベル、基本計画レベル、いろんな形でこの戦略性というのを反映する場はあろうかと思いますので、そのご議論の中でこういった観点も是非頭の片隅に置きながら、議論を進めていただければなという程度で我々としてはお願いできればと考えております。

大村虔一会長

いかがですか。

どうぞ。

小野田泰明委員

最初なのでよくわかっていないからあれかもしれませんが、大滝先生がおっしゃったのは戦略性を持つのがいけないとかということじゃなくて、これが要するに総合計画のための委員会で、非常に限定された情報で、しかも多領域の方々が集まって短時間で議論をする、しかもそれを市民に理解してもらうためのいろんな情宣活動とか、そういったものとリンクしていない切り離された組織ですよ。そういったもので戦略性を議論するというのが、ある種ちょっと矛盾を含んでいる。そこら辺の解けない部分はシステムの問題だから、ちゃんと理解した上で事務局が仕組んでくれないと、我々としても非常に厳しいし、そういうことを議論しても結局何のための議論なのかということになってしまう、むしろシステムの問題を言っておられたのかなと私は受け取りましたけれども。

一方で、行政資源といいますか公的な資源が有限といいますか、非常に限られているので、その分配を何とか効率よくというか戦略性を持ってやりたい、だけど日々の行政活動の中ではなかなかメリハリをつけられないので、この上位計画にそういったものを期待したいという事務方の気持ちもよくわかるので、戦略性は持ったほうがいいとは思いますが、それをどう市政なり市民に還元していくかというシステムをもうちょっと、真剣に考えておられるんでしょうけど、考えていただけたらいいんじゃないかなというふうに思いました。

むしろ、ここで議論をすべきだけれど、システムはちゃんと考えてくださいというふうに私は受け取ったんです。大滝先生、どうなんですか。もしかして理解が違っているかもしれないですが。

大村虔一会長

どうぞ。

大滝精一委員

そういうことで。いや、今、先生のおっしゃられたとおりだと思います。

つまり、結局これはいろんなやりとりはあると思いますけれども、市民の多くの方々、すべての人とはなかなか難しいかもしれませんが、多くの方々にやっぱり理解して納得していただくということが伴わないと、幾らこちらのほうでいきり立って、戦略性、戦略性と言ってもほとんど意味のないことになってしまうとか、あるいは、またもう1回最初からやり直しましょうみたいな話になってしまうと、何のためにやっているのかなということもあるんですね。

ですから、戦略性ということは私もすごく大事なことでと思うんですけれども、それをどういうふうにきちんと計画を立てて、その計画を実行のところまで移していくのかということで、きちんと首尾一貫したものをやっていかないと、ただ単にスローガンというか、掛け声だけで終わってしまうような危険性というのがやっぱりあるかなというふうに、最初からちょっと懸念されるというか、そういうことがあったのであえて質問したということです。

大村虔一会長

ありがとうございます。

恐らく市民に対する説明はとても大切になってきて、なぜこういうことを選ぶのかを説明するためには、この間いろんな資料をいただいたわけだけど、それをさらにもっと読み込んで、どこに問題が発生したり、どういうところが仙台の特色になっていくのかを、はっきり自覚する必要がありますよね。我々も自覚しなきゃいけないし、市民にもそれがプレゼンテーションできなきゃいけない。

そんなような意味では、その作業をこの限られた時間にさらに推し進めなきゃいけないというような気がします。人口の問題も、ただ量の問題ではなくて質的ないろんな内容を含んできますから、その辺を議論をしていただいて、そういう中から、こういうことはやらなきゃいかんということをはっきり打ち出してご理解いただければ、そちらで言っている戦略性というのにかかわることにもなるのかなというふうには思うんですね。

折田総合計画課長

まさに先生方がおっしゃるとおりで、この審議会に求める部分というのは当然あるかと思います。そのほかの部分において、システム上の問題ということで、当然市役所として舞台装置を整えていかなければ、当然、ここまでの議論の結果を現実のものとして根づかせるということは非常に難しいということは理解しておりますので、我々としてもこれから先、審議会での議論をいただいて、その結果について市長を先頭に周囲の皆様にご理解を得るといった形で、ご説明それからご納得をいただくような仕掛けというのはこれからやっていこうと考えておりますけれども、限られた時間、期間の中で、どれだけその政治的な装置、政治的な舞台をこなし切れるのかということに関しては、一定の限界もあるかと思いますが、その戦略性については、ちょっと今後も、あり方について議論の進む中で我々としても考えさせていただきたい部分でもございますので、よろしくお願いできればと考えております。

大村虔一会長

今のような方針で進めることでいかがでございますか。

はい、どうぞ。

増田聡委員

進め方については異論ありませんが、ただひとつ、仙台ぐらい大きなまちになるとなかなか難しいのかもしれませんが、数万人規模の町でいうと、やや違うタイプの住民参加型で積極的につくるというような議論も一方では出ていますが、100万都市の基本構想はなかなかそれでは積み上げ方が難しいというところもあると思うんですけれども、ひとつはそういう、この基本的考え方の裏のところに市民への情報提供というのがあるんですが、逆に市民の意見はどう吸い上げるのかというシステムについて余り明確に書か

れていないので、後ろのほうにはパブリックコメントとかシンポジウムとかいうのが幾つか出ているんですけども、そこら辺の仕組みは少し、もうちょっと強い仕組みをつくっておかないと、先ほど言った、納得していただいたかどうかというのを確認できないということになるんじゃないかと思います。

それと、もうひとつは、地域別の計画というのをどう考えるのかということで、多くの基本構想には地区別計画とかというのがついているものもありますが、今回の仙台市の基本構想については、どこか地区を絞って書くのか、各区の計画もこの後につくるのか、ちょっとそこら辺の話は後で教えていただければというか、考えを聞かせていただければと思います。

大村虔一会長

簡単に今の説明、事務局、いかがですか。

折田総合計画課長

これからの総合計画策定に当たっての市民の皆様の参画の形につきましては、この場でもいろいろとご示唆をいただければと思いますが、事務局としてもいろいろなアイデアを考えていきたいと思いますので、またその状況が固まりましたらご説明したいと考えております。

それから、地区別の計画でございますけれども、現行、区別の計画というものをつくっております。今回に関しましても、区別の計画を前回と同じような形でつくっていくというような想定をしておりますけれども、そのあり方も含めてご議論いただければなと考えております。

大村虔一会長

よろしいですか。ほかにございますか。

どうぞ。

岡本あき子委員

すみません。進め方について、今、増田さんからのご発言にも関連するんですけども、当局からの説明だと計画期間を基本計画だと10年ということで出ています。一方で、並行しているんな、例えば福祉だったり教育だったり環境だったり、いろんな施策別の基本計画も結構同時並行で進んでいるものが幾つかございますよね。

ちょっと自分の中で納得いかない部分があって、本来であれば、ここで全体的な仙台市の方針が出て、こういうところに重点、それこそ選択と集中もそうですけれども、こういうところに重点を置いていく、その中でもこういうところにウエイトを置いていくという方針が出た中で、例えば、では人の育て方はどうしたらいいんだとか、そういう各施策別、あるいは地区別の計画というのが、大きな方針が出て具体的な施策が決まっていける。あるいは逆に、各具体的な施策のほうのより市民に近い側の施策があって、そのボトムアップで、その中の各施策でも皆さん一生懸命やりたいと思っている中で、総

合計画としては、いや、各施策、皆さん盛り上がっているけれども、ここ 10 年ではとにかくここにウエイトを置いて、こっちは残念ながらということを選んでいくとか、そういうことが逆に、総合計画と各施策、あるいは地区の具体的な計画の位置づけの中でどう進めていくのかというのが出るのかなと思っていたんですが、どうも同時並行で進んでいく計画があると、こちらではこういう選択をしましたという一方で、具体的なところは、いやいや、そこを捨てられては困るんだ、もっと盛り上げていくんだという計画が進んでいったらどうなっちゃうのかなというのが、ちょっと自分の中ではうまく落ちてこない部分があって、当局としてはそこはどう考えていくのかということと、できれば、どちらも 10 年、10 年というので、多分今回そうになったらまた 10 年後も同時並行でやりましょうという話になるのかなと思うので、そこら辺は少し、私としては位置づけを含めて整理をしたほうがいいんじゃないかと思うんですが、いかがでしょう。

大村虔一会長

事務局、どうぞ。

折田総合計画課長

今のお話は、まさにご指摘ごもっともでございまして、委員から今ご指摘がありました、行政計画はいろいろ実は市役所内部にありまして、この総合計画に合わせた形で周期が定まっているものは数 10 件ほどございます。それがすべて同じような問題をはらんでいるということでございますので、中には法定の計画等もございますし、翌年度にずらすということで、これまでの行政の仕事の進め方ということも考えると、なかなか 1 年ずらしてというところが合理的である部分も多うございますけれども、これまでも実際内部で、例えば総合計画審議会における議論でありますとか、我々市役所内部での議論というのを各局と共有することによって、そういった齟齬が生まれないような形で処理をしまいいりましたので、今回の計画の策定につきましても、庁内では当然策定推進本部というのをつくってありまして、企業局を含めて全局長が入っております。当然、審議会でのご議論のご紹介をするとともに、市役所内部でも方向性の議論についてやっておりますので、その方向性については市役所すべての部局において共有されているということで考えますと、齟齬が出てくるということは考えにくいのかなと。

もうひとつ、スケジュール観でありますけれども、前回お願いしたスケジュール観で申し上げれば、年度内に基本構想中間案という形で、都市像についてはある程度の結論を出していただくようなスケジュール観を想定しておりますし、基本構想につきましても恐らく夏ごろに、パブリックコメント等の期間を考えますと、夏ごろには基本計画の中身が大体見えてくるということになりますので、ほかの計画にとっては非常にタイトなスケジュールになるとは思いますけれども、前段の日ごろからの情報共有と、それから我々が少しでも早くほかの計画に向けて案を示していくということによって処理をしまいいりたいと考えております。

大村虔一会長

よろしゅうございますか。半分納得しないみたいな顔をしていらっしゃる。

岡本あき子委員

ごめんなさい。やってみないとわからないことなので。ただ、例えば、環境とかほかの審議会も進んでいますけれども、そこでの議論は、今、現在、ここではわかっていないですね。もう既に始まっているけれども、こういうことが進んでいるというのが実際にはわかっていない中でやっていますよね。だから、当局は確かに庁内で齟齬がないようにとありますけど、議論をするこのメンバーの中でそういう情報があるのかないのかと言われると、ないままに審議が進んでいくおそれがちょっとあるので、そこがいかかなのかなという心配をしていました。

本当はやっぱり、その基本計画が方針が出て、半年なり1年なりずれて具体的な各施策別の計画がついてくるといこうが進めやすいと思うんですけども、結果としてどちらが効果的なのかはちょっと私の今の段階ではわかりませんが。

大村虔一会長

今のお話の中では、例えば計画そのもの、今つくられている計画そのものはこちらに逐一反映される必要はないけれども、その計画をつくるに至ったそれぞれの部局での現状把握とか将来推計とか、そういった資料は、我々のものの考え方に重大なやはり影響を及ぼすと思いますので、そういうものが都度知らせていただくというようなお願いをしておくことで、今おっしゃっているようなことは何とかクリアできませんでしょうか。

岡本あき子委員

まずはやってみないことにはわからないもんですから、そこは。

大村虔一会長

じゃあ、そんなことをお願いしておきまして、いろんなところで同時に並行しているのであれば、そういうところで何が問題になってそういう計画にしようとしているのかといった、まだ生のホットな部分を提出していただくというようなことにさせていただいて、よろしくお願いしたいと思います。

ほかにございましょうか。

もしなければ、もっとあるかもしれないんですが、基本的な考え方なんで、本当はやろうとすると小1時間やれちゃうと思うんですが、今日はまだいっぱいありますので、委員の皆さんからのご意見を踏まえながら、大枠としては今日お示しされたことを中心に進めていくと。そして、例えば戦略性みたいなものも、具体的な話が出てきた時点でもう少し吟味をするというようなことにさせていただきたいと思いますが、よろしゅうございますか。

(はいの声あり)

(3) 総合計画における都市像について

大村虔一会長

3 点目に移りたいと思います。

総合計画における都市像についてということでございます。

事務局から資料が示されてございますので、ご説明をお願いいたします。

折田総合計画課長

資料 2 と資料 3 に基づきまして、簡潔にご説明をさせていただきます。

まず、資料 2 でございますけれども、これは、これまでの本市の総合計画で掲げた都市像を上段に掲げておりまして、真ん中にその都市像の計画期間を入れております。その一番下に年表形式に近いような形で、どういう時代背景でこういった都市像が出てきたのかということがわかるようなことで、主な出来事を並べておりますので、本市がこういった歩みでここまで来ているのかということの延長線上に今回の総合計画も考えていかなくتهはいけないと考えておりますので、これまでの掲げてきた都市像、まさに仙台の都市個性というものが表れた文言になっておろうかと思っておりますけれども、こちらをひとつご参考にしていただければと考えております。

それからもうひとつ、今のものが縦だとすれば、資料 3 は横の状況でございます。全国の政令指定都市がどういう都市像を掲げているのかといったことをまとめた資料でございます。札幌から並んでおりますけれども、それぞれ計画期間、目標年次、都市像がどういったものかということで、ご覧いただければそれぞれ各都市、いろいろな都市像を掲げておりますし、計画期間についてもそれぞれ個性が出ているところでございますので、こういった形で今回の計画についても、特に基本構想でありますとか基本計画に決まったパターンでありますとか、そういったものはございませんので、自由にご議論いただきまして、仙台ならではの都市像というものをお出しいただければと考えております。その際の資料としてご活用ください。

以上でございます。

大村虔一会長

ただいまの説明につきまして、御質問がございましたらどうぞ。

どうぞ。

菊地昭一委員

この中にあります基本構想と基本計画の変遷の中で、大体 10 年から 15 年ぐらいが基本構想の年限になっているのがこれまでの総合計画の形かと思うんですけれども、今回約 40 年先を見据えた基本構想ですよね。その中で 10 年の基本計画ということで、確かに少子化、あるいは高齢化、人口減少時代等々踏まえての計画で、40 年という基本構想で 10 年の基本計画というのは、これまでの取組とはちょっと、構想としてはかなり将来を見据えた構想なんだろうけれども、この辺の考え方というのは基本的にはどうなのか

ちょっと気になったので。その 40 年という長い期間がそれに耐えられる、ある意味では道州制もこれから近い将来考えられる中で、そこまでの基本構想というのがどの程度実行されるものなのかなという気がちょっとしたんですけれども。

大村虔一会長

どうぞ。

折田総合計画課長

基本構想の目標年次に関しましては、現基本構想が 21 世紀中葉というのを掲げております。当時から見れば 50 年後の中の 10 年をどうするかというような仕立てでございました。この 50 年という時間については、時代の流れが速い中でそんな先までといったことはあるかと思えますけれども、今の基本構想は、先ほど申し上げました人口減少社会でありますとか少子高齢化でありますとか、それから地球規模の環境問題、そういった等々の問題を腰を据えて考えていくには、かなり長期のスパンでもってどういった大きな流れがあるのかということ踏まえた上で、ではその大きな社会変化に対応するために、この 10 年に何をすべきかということで考えられたものではないかと思っております。

その考え方については、今回の新しい総合計画でも、先ほど申し上げましたとおり、2050 年、さまざまな問題というのがひとつ曲がり角を曲がり切るのが、ある意味 2050 年になるのではないかというふうに事務局としては考えておりまして、その大きな変化が起きていく、これから先の 40 年のこの直近の 10 年というのは非常に重要な年になるであろうという考え方に基きまして、40 年先を見据えてこの 10 年何をすべきかという意味合いを込めて、こういった基本構想については 21 世紀中葉、計画については 10 年間という目標期間の設定とさせていただいております。

大村虔一会長

いかがでしょうか。

菊地昭一委員

そのときまで生きているかどうかは別にして、しっかり見定めたいと思います。

大村虔一会長

基本構想と基本計画は若干ニュアンスが違っていて、基本構想は、長期的で総合的な視野に立って、どちらの方向に行くべきか、どんなルートでそっちに行きたいかという、おおよその目標を立てるもので、余り近いと、かえって立てにくくなる部分も多分起こると思います。それに対して、そういう目標に向かってこの 10 年なら 10 年、何からどういうふうにやっていくかというのが基本計画でありますから、そこはかなり具体的な内容が入ってきて、長くすることはなかなか難しいものを組み合わせて、こうとらえているんだろうなと私は理解しております。つまり、目標にしているものと現実をどうつ

なくか、そのつなぎ目の当初の 10 年とか 5 年を基本計画で定めようということでありま
すから、姿勢としてはいいんじゃないかと思っておりますが、いかがでしょうか。

菊地昭一委員

別に悪いと言っているわけではないので……

大村虔一会長

恐れ入ります、どうも。

ほかにございませんでしょうか。

多分議論するとこれも、仙台市は今まで都市像というんで同じような言葉が何度ぐら
い出てきているとか、いろいろやると議論になると思いますが、今日はこれは参考に
してくださいというような、紹介という程度でよろしいんですね。

折田総合計画課長

また後ほど論点についてご議論いただくというのが今日一番のメインでございますの
で、その際にこの点に触れながらも結構でございますので。

大村虔一会長

わかりました。

それでは、ほかになれば、次に移ってよろしゅうございますか。

(はいの声あり)

(4) 前回の審議会での要請資料について

大村虔一会長

それでは、4 番目に移ります。

審議会からの要請資料についてでございます。

前回、各委員の方々からいろいろご要望がございました資料を事務局でまとめて提出
しているということでございます。

ひとつご説明をお願いしたいと思います。

折田総合計画課長

それでは、それぞれ簡単にご説明いたします。

まず、資料 4 でございますけれども、大村会長から、市内の N P O の活動状況につい
てどういった分野で活動しているのかという資料をというご要請がございましたので、
県の調査でございますが、まとまっているものがございましたのでお示しさせていた
きます。

ひとつ見ていただきたいのは 6 ページ、最後のほうになりますけれども、 、下の段
ですが、行政施策との関係で、行政では対応できていない領域で活動しているといった

団体が各分野でこのぐらいの数があるといったことで、こういった分野に今の行政の手が届いていない部分、もしくはこれから将来的に問題となり得る部分というのが隠されているのではないのかなというふうに事務局としては認識しております。

それから、次、資料5に移らせていただきまして、増田先生から、前回我々がご用意いたしました資料につきまして、来年になればまた数字も変わるということで、一度リンク集をつくればということでご指摘があった部分でございますが、仙台市のホームページである程度今お示ししている資料につきましてはデータをとることができますので、それぞれのどういうデータがどこにあるのかということをもとめて一覧にしております。これに関しましては、後ほどまたメールで皆様にお送りしてそれぞれクリックすれば飛べるようにいたしますし、あと仙台市の総合計画のホームページにも掲載いたしまして、市民の皆様にもこういった情報がすぐわかるような形で整備したいと考えております。

それから、資料6でございます。こちら増田先生からご指摘いただいた部分で、前回お配りいたしましたA3の横長の重点事業、今の実施計画に基づく重点事業の進捗状況というものをまとめた資料がございましたが、それで、過去の重点事業は一体どうであったのかということでございますが、大変恐縮なんです、重点事業というものを定めたのは今回の実施計画が初めてでございます、過去にああいった形で50の重点事業といったことをまとめたものはございませんが、その代わりといたしまして、それぞれ実施計画において直前の実施計画の総括をそれぞれしておりますので、これまでの3回分の直前の実施計画の総括といったものをつけさせていただきましたので、ここである程度、その当時どういったことが進んでいたかということをご参考に見ていただければと考えております。

それから、資料7でございます。鈴木委員からご指摘のありました市民の声の状況でございます。おめくりいただきますと「市長への手紙」、それから「インターネット広聴」、それから最後に「要望、陳情」といった3段構成になっておりますけれども、それぞれのルートを通じて、こういった分野についてどのぐらいの数のご意見でありますとか要望が寄せられているかということをもとめておりますので、こちらをご参照いただければと考えております。

それから、資料8でございます。間庭委員からご指摘のありました各政令指定都市のベンチマークの資料でございますけれども、おめくりいただきまして1ページ以降をご覧くださいと思いますが、それぞれ各分野別に代表的な指標をとってきてまして、その数字を政令指定都市、若干年によって、政令指定都市の数が最近ちょっと増えておりますので、変わってくる部分もございますけれども、データを取れる部分について比較したものをお示しさせていただきました。

それで、これまたゆっくりご覧いただければと思いますけれども、見ていく中で皆さまが疑問に思われる点があると思いますのであらかじめ解説しておきますと、12ページをお開きいただきますと一番わかりやすいんですが、学校教育の中で50メートル走タイムということがございます。ここで仙台市は9秒15と、小学校6年生の男子はそういう数字になっておりますが、これは順位1位というふうになっておりまして、これは逆で

はないかということに疑問に思われるかもしれませんが、実はこれはすべてのデータについて数字が大きいものから上に並べたときの順番ということでございまして、どっちが良い悪いということではなくて、単純に数字の大きなものから並べたときに仙台市はどうかということでございますので、各データを見る際に少しその点をご注意いただければと考えております。

それから、もうひとつ、資料 9 というものをつけさせていただきました。資料 8 をご覧いただきますと、では仙台市はこの 10 年こういった数字だったのだろうかということはずいぶん疑問に思われると思いますので、基本的にその各項目に対応した形で過去 10 年間のデータをまとめさせていただいております。わかりやすいところでいきますと、資料 8、資料 9、両方お開きいただきまして、どちらもページの 7 でございます、7 ページの左の上に都市公園面積というものがございしますが、政令市比較でいきますと仙台市は 2 位でございまして、市民 1 人当たり都市公園面積 12.52 平方メートルとございます。それが、資料 9 をご覧いただきますと、平成 10 年から 19 年の間にどのくらい伸びてきたのかといったことをあわせて見ることができますので、この 2 つの資料については、組み合わせてご覧いただくとまたいろいろな姿が見えてくるかと思っておりますので、過去 10 年のデータについては特にご要望はなかったんですけども、ご参考までにつけさせていただいております。

事務局からは以上でございます。

大村虔一会長

ありがとうございます。

新たに随分の資料がつけ加わったわけですが、ただいまの説明につきまして御質問がございましたらどうぞ。

よろしゅうございますか。

それじゃあ、それぞれご請求のあった方、見ていただいて、また何かございましたら事務局のほうにということにして、次に進めさせていただきたいと思っております。

(5) 新総合計画策定にあたっての意見交換

大村虔一会長

さて、新総合計画策定に当たっての意見交換ということで、ここからが今日の本番になります。今回、事務局から、資料として新しい総合計画策定に向けての大きな論点についてまとめたものが示されております。その説明を受けて、その後で委員の皆様とフリーな意見交換をしたいと思っております。

では、最初に事務局からご説明をお願いします。

折田総合計画課長

それでは、資料 10、それから資料 11 に基づきましてご説明させていただきます。

まず資料 10 でございますけれども、これは今日最初にご説明したほうがもしかするとよかったかもしれませんが、今ご議論いただいているのが、全体のロードマップで見て

どの位置にいるのかといったことを皆様に見ていただくために用意した資料でございます。

主に、今第2回の審議会でございますけれども、前回お配りした資料、紙ファイルとしてありました上にあります資料8、新総合計画策定に関する基礎的なデータ等いろいろございますけれども、それが昨年度我々事務局がどういった活動を通じて収集したデータかということも含めまして、時系列で並べたものでございます。その各種活動がそれぞれの資料に反映されて、今回、その資料をまとめた形で事務局として議論の参考にとということで論点をまとめさせていただいております。その論点について、今日これからご議論をいただきまして、そこで出ました委員の皆様からのご意見というのをまたとりまとめまして、起草委員会でより細かい議論というのをやっていきまして、年が明けましたら第3回の審議会を開きまして、起草委員の方におつくりいただきますたたき台といったものをさらにご議論いただくというようなスケジュールを考えております。

これから、こういった形で、我々事務局の動きでありますとか、先ほどのご議論ありました市民参画の動き、どんどん左下、右下に新しい動きが出てこようかと思っておりますので、そういったことも含めて、事務局の動きも含めてわかるような形で毎回こちらをお示しさせていただこうと、今のところ考えております。

それで、今日皆さんにご議論いただくに当たってご用意いたしました論点についてご説明させていただきます。

資料11をご覧ください。

大きく分けて2つのパートに分かれております。1番目のパートは、それぞれ人口問題等、これまでお配りした資料を要約した形で、分野別の状況でありますとか課題というものをまとめたものでございます。それから7ページ以降になりますが、これが今日の大きな論点になろうかと思っておりますが、我々として今考えている今後の基本構想の策定のための論点ということで、7つほどご用意させていただいております。

では、まず1番目の想定される状況、時代の変化、課題につきまして、これはかなり駆け足になりますけれども、簡単にご説明をさせていただきます。

まず、人口でございますが、我が国全体がもう総人口ペースで申し上げますと2005年から減少に転じております。今後の見込みとしては、2050年ごろには9,000万人弱になるということが見込まれております。本市は今のところまだ増加傾向でございますけれども、先日お示した資料では、あれは単純な推計でございまして、人口フレームについてはまたこれからご議論いただくことを考えておりますけれども、2011年ごろをピークに減少に転じまして、2018年、平成30年以降は急激に減少していくという見込みでございます。

それから、少子高齢化の状況でございます。高齢化に関しましては、今のところ国全体の数値から見ますと低いという状況でございますが、今後は国を上回るスピードで高齢化が進行すると想定しております。簡単に申し上げますと、2005年では15.8%というものが、2050年には38.4%になる見込みでございます。片や少子化については、2005年には13.7%であったものが、2050年には8.9%、人数的には約半分弱になるという見込みでございます。

それから、経済・産業の動向でございます。非常に経済の量的な拡大というのは我が国全体としても非常に難しい状況でございますけれども、各都市の状況を見ますと、クリエイティブ産業、創造産業の重要性というのが指摘されておりますし、それから高齢化ということを背景にいたしまして、健康福祉関連産業という市場は拡大していくのではないかとこのように考えております。

それから、定住人口の減少に伴いまして、それにかわる活力として交流人口の拡大という視点があるかと思いますが、そのためには、今、持っている資源を発掘して都市の価値でありますとか魅力ということを高めていくことが課題であると考えております。

あと、本市の状況を見ますと、やはり顔となります中心部の商店街というのを持続的に発展させるためにどうしていくのかといった点で、一大プロジェクトであります東西線の整備といったことをどういった視点で見ていくかというのは、非常に重要な論点になるかと思っております。

また、東北地方の農業といったこともきちんと踏まえながら議論を進めていかなければいけないと考えております。

次に、2ページ、都市構造・まちづくり、交通でございますけれども、これまで郊外住宅団地が造成されてきてまして、ある意味外延化というものが進んできたという認識でありますけれども、それに伴いまして中心市街地の活力の低下でありますとか、それから古くに造成されました団地に関しては低密度化、高齢化が進んで、買い物の足などの問題がこれから生じてくるのではないかとこのように考えて、これは各種報道もされておりますので、かなり市民の皆様にとっても関心が高いかと思っておりますけれども、そういった問題を含めまして、新しい交通システムのあり方を総合的に考えていく必要があると思っておりますし、そういった交通手段として自転車でありますとか、自転車だけでなく、当然高齢化が進めば高齢者の皆さんにとって歩きやすいバリアフリーな歩行空間の確保、これは少子化の観点からこのようにいった点は重要かと思っておりますけれども、そういった点についても考えていく必要があるかと考えております。

また、都市インフラに関しては、投資額そのものは、これから国、地方を含めて減少せざるを得ないという傾向にあるかと思っておりますけれども、公共施設の老朽化に伴う維持管理コストの増大というものをどのように考えていくのかという点が重要になるかと思っております。

それから、環境・緑・景観でございます。仙台の大きな都市個性でございますけれども、これまでの努力で、全国的に見ても都市イメージとして非常に大きな部分を占めておりますけれども、やはり中心部において緑が少ないといったことをこれから考えていかななくてはならないのではないかなという認識を持っております。また、脱スパイクタイヤ運動に代表されるように、やっぱりこうした環境問題でありますとかいろんな問題に対して、市民が中心になって問題が解決した実績というのは全国的に見ても誇れるものだと思っておりますので、こういった財産を生かしながら、どういったふうな問題の解決に当たっていくのかということとは重要な視点になるかと思っております。

それから、これは本市だけでどうにかなるような問題ではありませんけれども、地球規模の環境問題に対して、それを前提とした形で都市をつくっていかなくてはならない

という方向にはなろうかと思えますけれども、そういった地球規模の環境問題に対する配慮もこれからのまちづくりにおいて重要になろうかと思えます。

それから、財政の状況でございます。こうした問題に対して、行政として当然対応していかななくてはならないんですけれども、一般財源の総額、歳入を見てもと大幅に減少する傾向がございますし、片や歳出については、扶助費を中心に義務的経費が増加しておりまして、投資的経費というのを削ってその差を埋めているという状況でございます。財政としては非常に厳しいということを改めて申し上げておきます。

それから、国、地方で今いろんな形で制度変更が起こり得ると思えますけれども、今の政府の考えで地域主権ということが大きな柱になってございますので、道州制がどうなるかといったことに関しては、新政権も明確にこうするという方向についてはまだ示されていないと認識しておりますので、この場でどの程度、道州制について議論するかということはあるかと思えますけれども、地域主権という大きな方向に関しては恐らく変わらないと思えますので、そうしたことを踏まえた新しい基礎自治体のあり方ということもこの計画の中で考えていく必要があると認識しております。

それから、中枢性・広域連携でございますけれども、やはり東北の中核都市たる仙台という目線で画してそこを考えていく必要がございますので、東北の各都市からは、本市に対しては人材育成機能でありますとか、東北の情報発信基地としての役割といったところで、アンケート調査を見ますと、期待が高まっておりますけれども、こういった形で東北全体に貢献できていけるのかといった点についても大きな論点になると考えております。

それから、情報通信に関しましては、10年前に比べるともう大分浸透してきておりますし、今どんどんまだ技術革新が行われておりますので、これも当然の前提として考えていく必要があると思えますし、この情報通信の技術を使って、行政のあり方、それから市民活動を含めて、新しい展開が考えられればということで挙げさせていただいております。

それから、非常にあっちこっちに行って恐縮ですけれども、次に4ページの共生社会の部分でございます。これは仙台市がこれまで掲げてきた大きな部分でございますけれども、多様な生き方を自ら選択してその能力を十分に発揮できるまちというのは、大きな目標でございます。その点に関しては余り議論はないかと思えますけれども、都市の活力を考えていく上で、こうした多様性でありますとか、そういったことも重要でございますので、共生社会という観点についても忘れずに議論していただければということで挙げさせていただきました。

それから、コミュニティでございますけれども、ここで我々として大きな問題になると考えておりますのが、少子高齢化というのが非常に地域ごと、小さいメッシュで見たときに非常に進行の度合いが異なるであろうと考えておりまして、その地域、地域で生じる課題というのが非常に多様化してくるであろうと考えております。そうした中で、なかなか行政というのは一律に仕事をするというところがございますので、地域団体、市民活動団体、企業、それから我々行政も含めて、適切な役割分担のもとに課題を共有しながら、それぞれの主体が主体的に地域づくりに取り組むといったことが求められて

くと思いますので、その具体策をどう考えていくのかといったところがポイントになるかと思います。

それから、医療・健康でございます。これは非常に幅の広い分野でございますけれども、やはり大きな喫緊の課題としては、質の高い救急医療体制というのをいかにつくっていくのかといった点は重要でございます。文章の中でも大きくその分量を割いておりますけれども、それとは別に、長期的な視点に立ったときに、やはり医療費というものをいかに膨張を抑えることができるのか、当然必要な部分に関しては削る必要はないと思いますけれども、そうした視点で考えたとき、それから、これからは高齢者の方にもご活躍をいただかないと、なかなか社会の活力を維持できないということも含めて考えれば、やはり健康といったところを医療の中でも視点として入れて考えていく必要があるのではないのかなというふうに考えております。

それから、福祉でございます。こちら市役所の仕事の非常に大きな部分を占めておりますけれども、生産年齢人口が減少するといった中で、高齢者の皆様の就労でありますとかご活躍の場ということ、社会としてどのようにつくっていくのかということとは非常に大きな課題であると思いますし、高齢者の世帯を見ましても、ひとり暮らしでありますとか高齢者のみの世帯、老老介護といった問題がございます。世帯といっても一口に語り切れないさまざまな形があるといったことを認識しながら、これから地域全体でどのように支援していくのかといったことを考えていく必要があると思います。

それから、子育てでございます。少子化対策という切り口で子育て環境の整備ということは当然考えていく必要があるかと思います。長期的に人口動向を見たときに、今すぐに合計特殊出生率が上がれば人口減少がとまって人口が反転するということは、論理的に難しい部分がございます。どこまで出生率が上がるかという部分に依拠するとは思いますが、やはり長期的に考えれば子供、年少人口を増やすような形で施策を打っていく必要はございますけれども、人口減少に対する即効性という意味では非常に時間のかかる問題ですので、0歳の子供が20歳になるまで基本的に生産をすることは今の社会ではなかなか難しいということもございますので、そういった視点から、長期的な課題として子育てということもとらえていく必要があると考えております。

それから、教育でございますけれども、子供たちが将来社会で自立していくための生きる力というものをいかに身につけてもらうか、特に国際的な競争が激しくなる中で高い付加価値を生む人材を育てるということは、仙台市のみならず、我が国全体としての課題でございますので、学校教育でありますとか、そののみならず、さまざまな場面において学ぶ機会といったものを考えていく必要があるということと、あとは生涯学習という観点から、成人した後も学んでそれぞれが成長して、それが都市の力になっていくといった視点というのも重要であると考えております。

それから、芸術・文化、スポーツに関しては、文化については、ジャズフェス（定禅寺ストリートジャズフェスティバル）でありますとか、せんくら（仙台クラシックフェスティバル）でありますとか、市民が主体となってこういったものを企画運営するといったことは、仙台ならではの非常に誇るべき資産だと思っておりますので、それをどう生かしていくのか。それから、楽天、ベガルタ、89ERS初めとするプロスポーツへの

関心というのは、前回の計画よりも高まっている状況がございますので、そうしたものをどうとらえていくのか。

それから、災害対策・危機管理に関しましては、いずれ来ることはほぼ確実である宮城県沖地震への対応でございますとか、それから近年のさまざまな自然災害、新しい形の自然災害が生まれてきておりますので、ハード面、ソフト面から見て対応を考えていく必要があると考えております。

それから最後、市民生活でございますけれども、消費生活でありますとか食の安全といったことはここ数年で非常に関心も高まってきておりますし、こういった変化をどうとらえていくのかといったところは、前回にはなかった新しい論点を見出せるのではないかと考えております。

続きまして、論点についてご説明をいたします。

7ページ以降でございますが、論点を7つご用意させていただいている中で、まず最初に成熟社会の到来ということを挙げさせていただきました。恐らく今回の計画の中で、この成熟社会というものを一体どうとらえるかといったところが一番大きなポイントになってくようなと思います。人口減少のインパクト、少子高齢化による社会の変化、さまざまあると思いますけれども、そういったインパクトがどのようなものであるのかということをもどのように規定するかによって、それに対する処方せんというのは変わってきますので、成熟社会というものをどうとらえるかといった点は、まず最初に考えなくてはいけない論点ではないかと考えております。

それから、2番目に安心な暮らし、これは、市として一番やらなければいけない、最低限度の部分の責務であると考えておりますけれども、昨今は非常に生活・雇用といった面で不安が市民の中に広がっているという状況を考えまして、この部分に対してどういう手当をしていくのか、それは今後10年、それが40年だろうが100年だろうが、この基盤というのをしっかり見ていくというのは行政にとって必要なことであると考えております。

それから、3番目の持続可能な都市でございます。この1番、成熟社会が到来して、市民の皆さんの生活基盤をきちんと整えるといった上に、どういう目標を立てて我々は進んでいけばいいのかといったことを考えるに当たって、やはりこの厳しい状況、これまでる申し上げてまいりましたけれども、こういった厳しい状況の中にありましては、漫然としたという非常に強い言葉を使っておりますけれども、そのままでいけば、都市の衰退ということは避けられないのではないかと考えております。

そうした意味において、我々、今、仙台市に住んでいる身として、公共サービスだけでなく自然環境等々から受けるすべての恵みについて、それを享受している、我々が享受しているものを次世代に伝えていくということは、大きな責務であるとともに、非常にチャレンジングな目標になる。これまで、今あるものを将来に残すのは非常に当然としてとらえられてきたと思いますけれども、それすら非常に難しい課題になり得るという時代状況にあるのではないのかというのが我々の認識でございます。

そうした意味で、あえて目指すべきところとして持続可能といったところで、持続可能という言葉自体は環境問題等でサステナブルシティというような言葉で使われる機

会が多いと思いますけれども、ここではより広義の意味で、今の仙台の恵みというのを次世代にどう残していくかという意味での言葉として使わせていただいております。

それから、持続可能なものとするためには上に向かって伸びていく力、推進力というものをつけないといけないですが、その際、どういう視点が考えられるのかといったことをまとめたものが以下の論点でございます。

まず、何ととっても、仙台の過去の蓄積等を考えますと市民の力というのは非常に大きいと考えております。それは他都市との比較においても、仙台のかけがえのない財産だと思っております。現基本構想でも市民主体の都市経営ということは掲げられておりますので、当然行政として、市民主体ということで市民に丸投げというようなことではなくて、やはり仙台の大きな財産である市民の力というものをどう解き放つのか、どういうサポートができるのかといったところで、行政の果たすべき役割というのをきちんと考えていかなければいけないと考えておりますし、それから、市民だけではなくて企業の皆さんにも主体として加わっていただくという意味で、その三者の役割分担ということを考えながら、メーンは行政としてのサポートのあり方ということになるかと思っておりますけれども、そうした視点で考えていく必要があるのではないのかなと考えております。

そうした市民の力というのが仙台の推進力の核をなすという前提に立ったときに、ではそれを伸ばすために何ができるのか、当然今の主体をサポートするということもありますけれども、5番に移りますが、やはり人づくりということで、市民一人一人の力をどのように伸ばすのか、やはりその都市の持続的な発展を支えるというのは、その都市の構成員たる人でございますので、その仙台の未来を担う人材に対してどういう投資をしていくのかということが重要になると思います。

それから、今いる我々も、仙台というのは学都という学びの風土を培ってきましたので、市民がそれぞれの興味、関心に基づいて学んだり楽しんだり知ることが、市民が生き生きと活動するための原動力になるのではないかと考えておまして、生涯を通じて人が育ち人が学ぶ環境というのを確保していくということが、次世代に向けた大きな戦略の核になり得るのではないかなというふうに認識しております。

それから、6番になりますが、仙台の持つポテンシャルの発揮ということで、人に対する投資をやって人が生き生きと活動する、その先、その力を向ける先をどこにするのかといった点が大きな論点になるかと思っております。我が国が置かれている状況を考えますと、政治経済といった面で国際的な存在感、プレゼンスというのは非常に低下するということが懸念されておりますけれども、そうした中で仙台が国際的に見ても存在感のある都市として生き残っていくためには、やはり今の持っている個性でありますとか、個性を伸ばすとともに新たな個性というのを見出していく必要もあるのかなと考えておりますけれども、そうした中で、産業という面で考えますと観光でありますとか、今のセントラル自動車等の企業誘致等々あるかと思っておりますけれども、そうした動きをどう仙台市としてとらえ直していくのかという視点が重要ではないのかなと考えております。

9ページになりますけれども、本市は、皆様住んでいる実感としてもお感じになられていると思いますが、住みたい都市ということで上位に名を連ねておりますし、実際ア

ンケートを取っても市民の満足度は非常に高いといった中で、生活というものの総合力の高さというのは、仙台はほかの都市と比べても非常に競争力を持ち得るのではないかと考えておりまして、そうした生活あるいはライフスタイルという言葉の中に、製造業の今の新しい動きでありますとか、それから東北地方の農業、それから本市が持っているサービス産業の集積といったものをひとつの視点でとらえ直すということによって、仙台の新しい個性というのが見いだせて、それが都市の魅力につながり、次世代を支える産業経済の基盤になり得るのではないかとといったストーリーといったものもご議論いただければと考えております。

それから、最後になりますけれども東北との関係でございます。先ほど会長からお話がありましたけれども、東北全体で見ますと、既に 10 年以上前からもう人口が減少しておりますし、経済という面でも縮小というのが顕著な状況でございます。他方、自動車産業の拠点としてさまざまな投資がされておりますし、それから仙台塩釜港でありますとか仙台空港の整備が済みましたので、そういったものをつなげることによって、東北地方全体として見たときに、新たな可能性というのが広がる余地はあるのではないかと考えております。この東北の動向が我々仙台市の活力にとって大きな影響を与えることは間違いのないと思いますので、東北全体の持続的な発展につなげていくという観点で、東北の中核都市たる本市がどういう取組を進めていくのかといった点でもご議論いただきたいと思います。

長くなって恐縮ですが、以上で説明を終わります。

大村虔一会長

どうもありがとうございました。

18 の項目にわたって、想定される状況、時代の変化、課題というご説明があり、7 つの論点のたたき台というのが提案されてございます。

まず、今の説明につきまして、ご質問がございましたらどうぞお願いします。

それでは、後でまた質問が見つかったら質問ということにさせていただいて、これからは、主として委員同士の意見交換ということに使わせていただきたいというふうに思っています。大体 30 分ちょっと前ぐらいまでですから、あと 40 分ぐらいあるということです。ひとつどうぞよろしく願いいたします。どなたからでもどうぞ。

トップバッター、はい、どうぞ。

柳井雅也委員

東北学院大の柳井です。3 点、ちょっとお話しさせていただきます。

ひとつは、仙台市の都市の、先ほどから高齢化とか少子化という話と人口減の話が出ていたんですけれども、実は大学を卒業して職がなくて東京に行っちゃうというパターンが多いんですよね。これを何とか食いとめて、人口減に貢献するかどうかはわからないんですが、やっぱり地元に残す施策をひとつ考えていく必要があるんじゃないかと思っております。

そのためにも、今まで学問と、あるいは科学技術と、実際その研究であるとか、具体

的な起業というんですかね、業を起こすほうの起業との連携というのが今までやっぱり仙台市の施策として欠けていたんじゃないかなと思うんです。ここをひとつ強くしていくという施策が、いわゆる東京に出ていく流出人口の食いとめに役立てるような、そういう方向性と軌を一にさせていくという、そういう取組があるんじゃないかと思います。これが1点目です。

2点目は、高齢化というのをネガティブにとらえている説明が一般的に多いと思うんですけれども、もう少しポジティブに考えていってもいいんじゃないかということなんです。

それはどういうことかという、みんなお年寄りになるとリタイアしてそのまま消え去っていくのみかというところではなくて、変な話ですけど、70を過ぎてもまだまだ頑張っている方もいらっしゃるし、私が知っている方でも80代の半ばになって会社をつくって従業員を50人ぐらい雇っているような人もいらっしゃるわけですから、昔のように力仕事を中心とした労働じゃなくて、今はもう知恵の時代なんですよ。だから、それは死ぬまで使えるわけですから、この活力を是非ぐっと引き出していく、むしろ高齢化だったら高齢化社会なりのそういった人の活用の仕方、そこに工夫を是非施策として持ち込んでくるという、そういうやり方がやはり大事だろうと思います。

あと3点目なんですが、国際化のとらえ方が、ここで説明されていると、どちらかというと観光とか交流人口とかあと都市間比較というところに重点が置いてあるんですけれども、恐らくこれから想定する国際化というのはそういうレベルを超えて、相当数、外国から仙台にやってきて定住をされる、また仙台に住んでいる人が海外に行って仙台の情報を発信していくといったような、かなり人が動いてくる、そういう国際化というのが進んでくると思うんです。そういった意味でもそういった国際化をもうちょっと踏み込んでいって、それを経済的な活力に取り込んでいけるような施策を考えていったらいいと思います。

例えば、今度森ビルのところにウェスティンホテルが来ますけれども、やっぱり大使館関係の人と話をしていいますと、外資系のホテルが来ると必ずそれを目指して外資系の企業がやってきますよという話をしているんです。だからそういったものをもっとうまくインプラントしていけるような施策を打ち込んでいく、こういったことが大事なのかと思います。

以上3点です。

大村虔一会長

ありがとうございました。

どなたからでも結構でございます。今のとかかわりある話でも結構でございますし、別でも結構でございます。

どうぞ。

樋口稔夫委員

樋口でございます。私から2点。

ひとつは、今まちづくりと都市構造、最近話題になっているのが学校の統廃合とか、あと高齢化が進みまして、周辺の団地ではバスに乗る人が少なくなってバスの便数が減ってきたとか、あと場合によると路線が廃止になったとか、そういうあれがあります。

それで今、コンパクトシティというのをよくお話しされておりますけども、仙台市はまだ開発、区画整理とかそういうものを大分まだあちこちでやっておりまして、余り外側に広げるよりもやっぱり中の充実を図るということが大切だと思います。それでコンパクトシティというのを本気になって考える必要があるのかなというのがひとつ。

あと、公共施設がやはり郊外に大きく伸びますと、どうしても老朽化して維持管理が大分かかるようになりますね。こういう経費がばかにならなくなるわけです。特に郊外団地は立派につくって、老朽化した場面で大分お金かかる施設が多いんですよね。こういうものをやはりきちっと今後の都市構造をつくる上で考えておく必要があるのかなと考えております。

あと2点目は、昔ですと田舎のほうは共同作業とか当たり前で、みんな文句言わずにやっていたわけですけども、最近、都市部はどうしても意識が皆さんいろいろ多様化して違っているわけですが、私ちょうど連合町内会長会をやっていますんで、協力してもらえないというよりもまるっきり無関心の方が結構多いんですよね。特に外から入ってきた方はどうしても近くの人と接触しない人が多くて。だからさっき市民の力を使おう使おうという話はわかるんですけども、実際これはすごく難しいんですよね、力にしようとするのは。それをもう少しきちっと、何ていうんですかね、そういう力になるような仕組みづくりをしていかないと、町内会とかそういうものがいろんな意味でやりにくい状況が、今よりもっとひどくなるということが考えられます。

そういうことで、そういったものをまずきちっとやる方向でやってから、市民の力をどんどん使っていただければ、我々は今でもやっているところは相当本気になってやっていますけども、今後、行政でどうしても手を出せないところは我々やるしかないんで、その辺、是非考慮していってもらえるような計画にしてもらいたいと、そう思っております。

大村虔一会長

ありがとうございます。

ほかにいかがでございましょうか。

どうぞ。

鈴木勇治委員

今、コンパクトシティのお話が出ましたんで、それに絡めて。

別に反対ではないんですけれども、ひとつ、政策で選択と集中、効率的な政策とかこれまでずっと言われてきたわけなんですけれども、それだけをやっちゃうと中心市街地に住まれる方、それと郊外に住まれる方、特に農村地帯に住まれる方、これとの対立といいますか、そういったものだけが生まれてくるということでもあります。なので、ひとつは、やはり郊外地、農村部に住むそこでのメリットというのがあはず

です。そういったものを明確に提示してあげて気持ちを変えさせるというか、意識を変えさせるという、そういったことも必要なのではないかなというふうに思います。ですから、その点がひとつです。

あとは、感想でありますけれども、たたき台の1、非常に暗く感じたんです。先ほど高齢化時代、決して悪くないよと。確かに悪くないと思います。能力は非常に持っておられる方たくさんいると。それと結構遊ぶに余裕のあるお金があるというふうなことで、いわゆるそういったスポーツ、健康志向でそちらのほうにお金をかけるという、そういった市民も多いということでありまして、そういったことでは経済も回るということでもありますから、決して悪いことだけではないというふうな感じをしております。

たたき台の2のほうに入って、少し明るくなってきたかなという気もしたんでありますけれども、希望としては、現実には現実として厳しいことも書くのもいいでしょうけれども、やはり先に向かっての構想でありますから、市民にわかりやすく明るい希望が持てるようなものを含んでいただかないと、どうも暗いばかりで終わっちゃうのかなというふうな感じがしますので、その辺はよろしく願いしたいなと思います。

大村虔一会長

ありがとうございます。

ほかにいかがでございましょうか。

どうぞ。

岡本あき子委員

私も仕事柄、他都市とか行かせていただく機会があって、非常に仙台ってすごいなと思うのが、このデータの中にもあるんですが、実は町内会の加入率ってトップなんです。地域コミュニティが経年で見ると年々減少してきて、9割を切ったということで非常に当局のほうも危機的だというお話をされていますが、ほかの自治体とお話をすると、仙台市の地域のつながりというのはまだまだ全国に誇れるものがあるんです。是非それは維持していく、今どんどん減少してきていますので維持する、その地域のつながりをより力が発揮できる仕組みをつくっていくというのは、非常に大事ななと思っています。

もう1点、やっぱり環境の意識というのもやはり誇れるものだと思っています。昨年からは家庭ごみの有料化に取り組んでいまして、皆さんからのいろんなご意見いただいて、実際ほかの都市に伺うと、仙台市の場合は9割の方がルールを守っていらっしゃって、環境の取組を一生懸命やっても、1割の方がずさんな意識を持っていたりとか協力されない、あるいは環境の意識が低いと、仙台としてはやっぱりその1割の方を何とかしなければいけないというお話になるんです。ただほかの自治体に伺うと、9割守っているから十分ですという反応を、ほかの自治体の取り組んでいる方からは伺って、非常に同じ数値でもギャップがあるんだと。

逆に言うと、仙台市はそれだけ関心があって、環境に取り組もうという意識を持っていらっしゃる方が非常に多いんだなということを感じていますので、是非その仙台市の持っているよさというのを最大限発揮できる計画をつくり上げていきたいなと思っています。

ます。

もうひとつは、やっぱり大学生と専門学校生も含めて 20 歳前後の若者が非常に多いというのは、やはり仙台市の財産だと思っています。学都というとすぐ研究との連携、産業化、そういう部分も確かにあるんですけども、学生とつながっていくということは非常に大事なのかなと思っています。学生さんとよくお話をすると、接点がない接点がないというお話を伺います。それは多分、仙台市としても市民としても、外から来た学生に対して近づこうとか情報を交換しましょうというところが、まだまだ不十分なところがあるのかなと思いますが、是非そういう若い力、高齢者の方の力もそうですし、若い方の力を是非この仙台で青春時代を過ごして、仙台で自分も存在感があったなと、もし一時離れたとしても、いずれ仙台に戻ってくるというのも選択肢だなと思えるようなまちづくりを是非していただきたいなと思っていますところです。

以上です。

大村虔一会長

ありがとうございました。

どうぞ。

江成敬次郎委員

環境の問題と、論点としての持続可能な都市にかかわって少し発言させていただきます。

仙台市の環境というのは、今お話があったようなよさもあるし、また非常にすぐれた自然環境を持っているということでも特筆すべきことだろうというふうに思います。ここにも書かれていますように、そういったものを守ってきたこれまでの市民の力、それから行政の力、それをきちんと評価するということはひとつ重要なところだろうというふうに思っております。

持続可能な都市というふうなことで、持続可能性ということがいろんなところで言われているんですが、仙台の持続可能性を高めるということでは、やはり仙台の資源をどういうふうに生かしていくのかということを考えていくことが非常に重要ではないかと。環境とのかかわりでいえば、仙台が持っている自然資源、ここで固有名詞として出ておりますのが広瀬川とか青葉山、それからケヤキ並木、さらに周辺の広大な奥羽山脈というふうなものもあるだろうと思うんですけども、そういったものを生かすというふうなことは、持続可能性を高めていく、あるいはそれを実現させていく上で非常に重要なところだろうというふうに思います。

ただ、それをもう少し具体化して取り組んでいくということが、これから求められてくるだろうと。今までどちらかという少しお題目的なところで、それを目指すというふうなことで方向性は少しずつ出てきているわけですけども、それを具体化していくというふうなことが必要になってくるだろうというふうに感じております。

それから、仙台の資源をどう生かすかというふうなことでは、自然の資源だけではなくて、今何人かの方から発言あったような人的な資源とか、それからソフトの資源

とか、そういったことを生かすということも、やはり仙台のまちの持続性を高めていく上で非常に重要なところだろうというふうに考えております。

大村虔一会長

ありがとうございます。

いかがでございましょうか。

どうぞ。

石川建治委員

ちょっと事務局に1点確認というかお聞きしたいことがあるんですが、新たな基本構想を策定するに当たって、当然ながら現計画も含めたこれまでの基本計画の総括といったことが踏まえられる必要があるだろうというふうに思うんです。その際に、先ほど報告をいただきましたが、財政を見れば非常に暗い話になってきます。私も議員をやっておりますので、個別施策については議会の中でやりとりをしておりますけれども、例えばこれから少子高齢社会になっていったときに、必要な行政サービスを提供していくということの財源をどう確保するのかということが、ひとつひとつの施策を考えたときにぶち当たる課題なんだろうというふうに思うんですが。しからばこれまでの基本計画、長期計画とその財政の、今回は見通しとか出ているんですが、これまでの長期の財政計画というんですかね、税収なども含めて、その財源と計画と施策といったところの整合性などについての総括といったものがこれまで行われてきたのかどうか、1点確認をしたいんですが、お願いいたします。

大村虔一会長

事務局、いかがでございしますか。

金集総合計画課主幹

財政的な見通しにつきましては、財政局のほうで作成しております中期財政の見通しというものはございますけれども、実際、基本計画に掲載しております施策の実施につきましては、実施段階で実施計画という4年ないし3年程度の計画をつくっておりますけれども、これらをつくる際に財政的な見通しなんかも踏まえながら、具体的な事業については精査を行っているということでございます。

大村虔一会長

どうぞ。

石川建治委員

その際に、最初、今回の会議の冒頭に議論になりました基本計画の考え方ですね、戦略性などというふうなことがありましたけれども、例えばある意味、市民の方たちが夢を持ってこの仙台市で生き続けられるという条件を、どのようにして行政としてつく

っていくのかというふうにした場合に、やっぱり財政というのは無視できないというふうに思うんです。しかし今、財政を見れば、財政の面からすると、残念ながらそういった夢の持てるといいますか、それから将来にわたって高齢社会になったときに行政サービスが受け続けられるのかどうかということの保証も、なかなか厳しいというふうに見えてくると、戦略性というよりも財政にかなりきつく縛られてしまうような計画をつくらざるを得なくなってくるのかという、残念ながらそんな気もしているものですから、そういった面では厳しい財政というだけじゃなくて新たな税収を確保するための施策なども、長期的な視野に立って具体的に進めていく必要があるのかなというふうに思っております。

なかなか具体的なことは出ませんが、そういったところも意識して、これからその構想について議論させていただければと思います。

大村虔一会長

ありがとうございました。

いかがでございましょうか。

どうぞ。

柳生聡子委員

たたき台の子育ての部分について、ちょっともう少し具体的にかついわゆる戦略的に、それこそ考えていったほうがいいのではと思いましたので、ちょっと発言させていただきます。

今日お配りいただいた資料6の仙台21プランの実施状況の達成度などを見ましても、保育所の待機児童の数ですとか休日保育を実施する保育所の数、夜間保育を実施する保育所の数、いずれも未達成となっております。働く女性が増えている中で、働き方も多様化していると思いますので、休日保育、夜間保育だけでなく病児保育といった考え方も含めて、もっと具体的に考えていかなければならないのかなというふうにも感じました。

また、第1回の審議会の前にお配りいただきました市民アンケートの結果を見ましても、仙台市の評価しない施策のランキングの第3位が子育て支援の充実だったんです。ワーストスリー、第3位に、やっぱり子育て支援の充実が評価できないというような市民アンケートの結果が出ていますので、やはりこの子育てという部分に関して、もうちょっと本当にせっぱ詰まった感が基本構想の中にも入っていければなというふうに感じました。子供がいても、やっぱり働かなければいけない、働かざるを得ない状況の家庭は本当に多くて、私の周りにも多いです。今後もそのような状況は変わらない、むしろ増えていくのではないのかというふうに思っておりますので、子育てと仕事の両立が確保できるような、担保されるようなバックアップの体制を、やはり行政もとっていかなければいけないのかなと。

そういった環境が整えば、やはりもう1人産んでみようかなとか、子供欲しいわという方も増えていって、どの資料を見ても少子高齢化、少子高齢化が未曾有のスピードで

なんて書いてありますけれども、やはり少子化にもストップの、プラスにも働いていくのではないかと思いますので、やはりこの点もしっかり考えていかなければならない。冒頭、折田課長が、優先順位が透けて見えるようなものというふうにおっしゃっていましたが、是非その子育ての部分は優先順位を少しでも上げて考えていければなというふうに思っております。

以上です。

大村虔一会長

ありがとうございました。

ほかにどうでしょうか。

どうぞ。

高野秀策委員

先ほど、鈴木委員さんから農村部のお話、ちょっと出ましたが、私も農業のほうから発言させていただきたいと思いますが、仙台はご案内のとおり太平洋から山形の県境まで海岸地帯、平たん部、そして都市近郊の農村地帯、さらには西部のまさに中山間の農業地帯と、多様な生産体系、地域体系の中で、農家の数にすると、まだ農家と言われる数は7,000戸ぐらいある。あるいは水田は5,000ヘクタール、畑1,000ヘクタールほどありまして、優良な農地をかなり多く持っている、そういう政令市仙台だと思っています。

先ほどの資料で見ますと、農業産出額は86億で、政令市の中ではそれでも6番目に位置しているということでありまして、まだまだ農業が健在な都市だというふうに思っております。100万の人口がこれからも人口減少、少子高齢化で減ると言われても、やはり農地があって、あるいは山があって、そういう自然があって、100万都市仙台市が健全に将来とも進展できるのではないかと、こう思っております。農業後継者も減っていますが、集落で堀払いをしたり草刈りをしたり、堤防とか河川敷の草刈りをして、こういったいわゆるボランティア、奉仕的な作業があって農村地帯が形成されて存続されていると。こういう実態をやはり都会に住む方々にもしっかりと理解をいただいて、農村部がしっかりきれいに、そして農業生産が持続的にできるような、そういう政令都市仙台の中での農業も是非位置づけるような計画になればいいのではないかと、こんなふうに思っております。

担い手は65歳以上の農業就業者が6割以上と言われていますが、まだまだ健在で頑張っていますんで、是非そういうことも皆さんで検討いただければありがたいと思います。よろしくお願いいたします。

大村虔一会長

ありがとうございました。

西大立目さん、手が挙がっていましたね、失礼しました。

西大立目祥子委員

8 ページに仙台の持つポテンシャルの発揮というところがありますけれども、ここの冒頭に書かれています都市間競争という言葉があるんですが、私自身はこの都市間競争という言葉にすごく強い違和感を感じてきました。都市間競争、地域間競争という言葉がもう当たり前に使われて、この 10 年ぐらい経つんですけれども、一体これはだれが使い出したのかわかりませんが、こういう言葉に乗せられてグローバルスタンダードだ、国際化だと言っている間に中心部商店街は空っぽになり、地域コミュニティはずたずたになり、何か壊されてしまったのが事実なんじゃないのかなと思うんです。ですから、もうフレーム自体が変わったのに、右肩上がりのお互い競争し合って、負けてはならじみたいな、そういう勇ましい言葉でこれからの時代はもう語りたくないというふうに思います。

片方で共生社会だと言いながら競争に負けるなということは、もうその構想自体の中で矛盾を来しているわけですから、私は何かフレーム自体を、だれも生きたことがない時代が始まるわけですから、もっと別なフレームをつくって、そこで都市間競争ではなくて都市間共生の時代をどういうふうに生きていくか、先ほど折田課長さんがおっしゃったようにマイナスも分け合う、プラスも分け合うというか、もう都市同士はシェアしてこれから一緒にやっていけない限り、もう私たちの生活自体が成り立たないと思うんです。競争でつぶし合っている時代はもう終わったと思います。

ですから、何かもう今までの基本構想とは全く違う、何か新しい風呂敷をきれいに広げて、そこでこれからの仙台というのを考えていければなと思うんです。お年寄りが増えるとか子供が少なくなるとか、お金もなくなるということは本当に大変なことかもしれないけれども、でも、だからこそ、もしかしたらおもしろい時代が来るぞというようなことを市民に提案していきたいと思います。少なくとも一市民として生きている限り、都市間競争を仙台がしているなんて思っていないから、私は市民が一生涯使わないだろうというような言葉は決して使わないで、むしろこういう言葉にもう少し批評を持った言葉を織り込みながら、この構想というのをつくっていければいいなというふうに感じています。

大村虔一会長

ありがとうございました。

ほかにいかがでございましょうか。

どうぞ。

阿部一彦委員

先ほどから委員の皆様から、ほかの地域に比べても市民の力が大きいというお話がありました。その市民の力ということをしっかりさらに引き出すことができるような基本構想、基本計画をつくっていただきたいと思います。

例えば、車いすの人がまちに出ていく活動はちょうど 40 年前から始まって、仙台市で生活圏拡張運動ということで大きな成果を生みました。障害がある市民と障害のない市

民、ここに学生が加わってのことです。そしてデパートに車いす用のトイレができたというのは、第1号は三越デパートとされています。そのように、先ほど学都ということですが、けれども、仙台でそのような環境にあった学生たちが、またいろんなところで、先ほど委員の皆様からお話がありましたけれども、そのような大きな影響力を持つようなことをしっかりと踏まえて、そういうことも市民の一人一人に知っていただいて、さらに市民の力を引き出すような計画ができればすごいのかなと思っていますし、今、本当に競争型社会から、言ってみますと物質的豊かさから心の豊かさを追求する時代になったというところ、それが成熟型社会だと思いますけれども、そのときに市民の力、そして先ほど事務局の方も共生社会ということを第1に掲げてきたということもありますので、これまでのこともしっかり市民に伝わり、さらに市民の方々が力を発揮して、だれもが暮らしやすい仙台市をつくるというイメージというのがすごく大事かと思って、ちょっとお話しさせていただきました。

なお、実は先ほど冒頭ありましたけれども、仙台市障害者保健福祉計画は23年度までの計画がありまして、24年度からの計画を今つくり始めようとしています。1年違いますが、両方の計画をしっかりとつないでいくような計画ができていくことは、先ほど委員の方から発言あって、とてもそのとおりだと思いました。

以上、ちょっと障害者福祉という立場と、障害のある市民、ない市民の協働のまちづくりの中で、これは全国的にもよく仙台市ということが知られていること、それからまたもう1点ですが、仙台駅のペDESTリアンデッキは全国でもとても評価されています。例えば新横浜のペDESTリアンデッキは去年ぐらいにできまして、最初から構想してつくって、それはいいかもしれませんが、仙台は不便なところがあればそれをつけ加えて、だれでも使いやすくなってきているということは、いろんな人から意見を聞くところでありますので、そういう仙台のよさということが、さらにほかの分野にも広がるように、この基本構想、基本計画の中で市民に知ってもらいたいと思います。

以上です。

大村虔一会長

ありがとうございます。

およそ今までで10人の方にご発言いただきました。まだまだいらっしゃいますので、どうぞよろしくお願いいたします。

どうぞ。

水野紀子委員

力点の置き方というのと、それから時代の変化というもの、今まで話題の中に出てまいりましたけれども、子育ても先ほど発言に出ておりましたが、諸外国の社会福祉と比べましたときの日本の特徴を申し上げたいと思います。

余りにも急速に高度成長を遂げましたので、日本の社会は昔の牧歌的な地域コミュニティが生き残っていて、そしてその家庭の中に人々が入り込んでいて、隣のうちのおばちゃんや縁側から平気でうちの中へ入ってくる、それから村社会の中のある種の監視体制

と協力体制ですね、良きも悪しきもですが、そういうものが生きていた時代から急速に高度経済成長を経て家庭が孤立していくという時代が変わっていったことの対応が、まだ日本の社会はできておりません。そして社会福祉におきまして、やはりどうしても声の大きいところに、発言権のあるところにお金が行くということになりますので、高齢者の格差、高齢者世帯の格差は税と社会福祉によって是正することによって、その格差、その前のジニ係数より減るんですが、子供のジェネレーションの格差は社会福祉と税によって是正すると拡大するという、先進国にはあるまじき非常に特殊な形になっております。つまり高齢者のほうが声の大きいものですから、そちらにお金が行くんですが、子供ジェネレーション、子供世帯のところから搾取をされていて、社会福祉と税によってむしろ格差が拡大してしまうという、そういう社会になっています。

その結果、孤立した、6ページの子育てのところにも書かれてありますけれども、児童虐待を受けている子供や発達障害児、ひとり親家庭やDV問題を抱える家庭などが増えているというふうに書かれておりますが、本当にこの問題は深刻になっておりまして、私は法学部の教師でございますが、法曹の実務家との付き合いも多くございますが、彼らは一斉に、最近本当に人格障害者が多くなってきたということを嘆いております。それは困ったというか、異常な犯罪を犯すような人々がこのごろニュースでも新聞でも騒がれますけれども、ああいう人々って大体間違いなく子供時代に虐待を受けているんです。虐待の結果、今もうだんだん研究進んできているんですが、幼いころに脳はエピジェネティクス変化というのを起こしていますので、子供の時代に虐待を受けると、その人間らしい共感を持つような脳の部分というのが破壊されてしまいます。萎縮してしまいますので、人格的におかしく育ってしまうという問題があります。

ですから、そこにはともかく家庭の中で孤立させていくと、ストレスのかかった親は虐待がエスカレートするという構造がございますので、そういうところに手を入れていかなくてはならないんですが、その社会福祉でも、ここで6のところで見えておりましたら、子育てに関する費用に対して経済的な支援ということをおられて、経済的な支援というのは確かに大切だと思います。何しろ税と社会福祉で是正した後、格差が拡大してしまうような状態ですから、経済的な支援も大切なんですが、私はばらまきという形でお金をかけるよりは、ともかく本当に困窮している育児の現状、それから孤立しているところに手が入っていかなくてはいけないというふうに思っております。具体的な援助の手です。

その援助の手をたくさんの税金をかけて公務員の手によって入っていく、プロフェッショナルなカウンセラーなどが助けに入っていくというのが、比較的先進国では王道なのですが、仙台市でそれだけの財源の問題、これはとてもお金のかかる問題ですので、財源の準備ができないということになりますと、辛うじて残っている地域コミュニティや、先ほどもご発言がありましたけれども、町内会や地域のかかわりでございますね、このような力を何とか生かして、この問題を救出するような設計ができないかなというふうに考えております。

伝統的なこの地域コミュニティの力を、もうちょっと民主的で平等で、そして法的なルールにのっとる形によって、そのような力を使って子供たちを助けていくというふう

なところに結びつけていくことが、何か答えにならないかというふうに思っております。抽象的な心の豊かさというご発言がありましたけど、抽象的に心の豊かさとおっしゃるそのお気持ちはとてもよくわかるのですが、それを言うことよりも、もっと具体的にどのように子供たちの健全な発育を確保できるかといいますと、これはスローガンを言うことではなくて、制度設計をしていくことだろうというふうに思っておりますので、そのような計画を立てていただければと思います。ありがとうございました。

大村虔一会長

ありがとうございました。

どうぞ。

菅井邦明委員

進め方について提案ですけども、今 10 人くらいというお話、今まで発言された方、委員は相当おられるわけですし、多分、委員長の先生、副委員長、頭が痛いなと思って推察しておりますけれども、今いろんな意見が出ています。この作業をやっていくのにいろいろ都市像とかいろんな話が出ましたけれども、どういう考え方で何を指すのかということが大事なだろうと。それは理念と言ってもいいし、考え方と言ってもいいし、希望と言ってもいいと思うんですけども、どういう考え方で何を指すかというのは、そこをみんなで作業で詰めていけるんなら詰めていったらいいんでないかと。

それができるとすれば、ある試案がここでできるとすれば、それはちょっといいかげんなんですけども、キーワードでやっちゃって、文脈づくりは起草委員会にお任せしてもいいんでないかと思うんですが、そういうのができると、具体的に今、水野先生も話しましたけれども、ある種の施策の段階というか順位とかというものができて、あと先ほど戦略の話が出ましたが、戦略はその施策をどういうふうに展開するかという進め方のほうですから、それは行政なりそちらにお任せするのもかもしれませんが、そういうケースが出てくるような気はするんです。

そういう意味では提案は、今この委員の先生方に、例えばこれはいいかどうか別としてですよ、10 項目キーワードを順位づけてもらおうと。私は子育てだ、私は財政だ、そういう順位づけて 1 から 10 まで出してもらって、それを事務局か委員長、副委員長かわかりませんが、起草委員会かわかりませんが、一応数でこういうふうになりましたと。ですから土俵の上に三角錐を書いた形で、一番上の順位から下まで 10 位まで書いて、10 位に入らなかったのは土俵の上にキーワードを散らばせばいいと。そこでもう 1 回こういう議論を進めていくというやり方はどうなんでしょうか。そうすると一応皆さんの意見は、そこにある種の集約はされるんじゃないかなという気はするんですが。非常にイメージ・ゴーイングで申しわけございません。

大村虔一会長

ありがとうございます。

最初の話でありますから、皆さんが大体どんなことについてどんなふうに考えている

のかというのを一通り披瀝していただいて、それを受けていただいて、事務局が先ほどつくってくれた視点のようなものをもとに、起草委員会で少したたき台をつくっていただきながら議論をするのがいいかなというふうには思って実は進めておりました。

皆さん、なかなかいいお話をされるもんですから、余り制限をしないでお話を伺っておりましたが、結果として全員に当たるのは相当大変だという状況に今なって頭を悩ませてございます。できれば皆さんの時間がどれくらい許せるか、多少伸ばさせていただいて、できるだけ一通りご意見をいただいて、そしてそれに基づいて事務局と、それから起草委員のほうにバトンタッチをして、今日の意見を少し事務局に整理をしていただいて、起草委員会を開いていただいて、その辺で少し組み立てていただければいいかなというふうに思っているんですが、いかがでございましょうか。

よろしければ、ちょっと時間を延ばさせていただいて、夜でございまして余り延びるのはいろいろ皆さんご都合あると思いますので、今までの方の時間を制限しないでおいて、この後の人は何分というのもなかなかちょっとやりにくいんですが、お互いのことを考えて適切に言葉を選んでご発言をいただくということでご容赦いただきたいと思いますが、よろしゅうございますか。

(はいの声あり)

大村虔一会長

大変ご意見ありがとうございます。

ほかに、それでは少し。

どうぞ。

針生英一委員

針生でございます。3点ほど言いたいことがあったんですが、時間の関係で2点に絞らせていただきます。

まず、7ページのまちづくりの主体というところなんですけれども、ここの部分では市民がどう市政にかかわるかというのがひとつのキーワードになっていると思うんですが、現基本構想ではどちらかというと、今までは市が決めたことに市民が協力してもらうとか、そこから一歩進んで市民の声を市政に生かすとか、そのあたりが市民協働というふうに恐らく定義をしていたんだろうなというふうに思うんですが、これからはやはり市民が政策づくりにいかにかかわっていくとか、戦略的な協働ということがもっと求められると思います。

ここ何年間か、市役所内部のいろんな動きを見ていますと、やっぱり市民協働の意識が仙台市自体も大きく後退をしまっているのではないかなというふうに私は危機感を持っているんですけれども、やっぱり市民活動の現場を知らない職員が非常に多いということに危機感を持っています。やっぱりこれでは市民協働といってもぴんと来ませんし、冒頭に議論があったように、基本構想、基本計画だけつくってもなかなか動かないということになってしまいますので、やっぱり市民と一緒に汗をかいて知恵を出す風土

というのを市役所の中につくっていかないと、市民協働も絵に描いた餅になってしまうのかなというふうに思っています。ですから市民がもっとかかわっていくということを重点的にやはり考えていくべきかなというふうに思います。

それから、仙台の持つポテンシャルの発揮というところですが、ここも経済のことも触れておりますけれども、ここはやっぱり交流人口を増やすとか企業誘致をするとか、こういった部分も非常に大事だとは思いますが、もともとある地場の産業のイノベーションとか、それから地場産業とその周辺の産業とのコラボレーションとか、そういったことが非常に重要、もともとあるものをどういうふうに再構築していくのかということが非常に大事なかなというふうに思っていますし、あともうひとつは、コミュニティビジネスのような、要するに地域課題解決型のビジネスというのを、やっぱりこの中に考え方としては入れていって、多様な経済主体が地域の経済を支えていくという、そういうような流れをこの中に入れていったらどうかなというふうに考えておりました。

以上です。

大村虔一会長

ありがとうございます。

どうぞ矢継ぎ早にお願いしたいと思います。

どうぞ。

間庭洋委員

私も縮めて2点にさせていただきます。

ひとつ目は、今の針生さんの話とも関係する7ページのまちづくりの主体のところなんですが、例えば交流人口を増やすとか企業誘致というのは、目的じゃなくてひとつの都市づくりの形成のための手段、手法なわけです。この中に項目ごとに書きますと当然やむを得ないんですが、そういう目的的なものと、そのための手段が混在している部分があるんですが、私風に交流人口を増やすとか企業誘致を云々というようなところを表現すれば、市民の主体性にもかかわるんですが、仙台は暮らしやすいと皆さんおっしゃっている、そのとおりだと思います。暮らしやすい仙台を継承あるいは持続的にということが、大きな概念としてあると思うんですが、私たちはそのことを納得して今いるわけですが、将来、子供たちが、青少年がやはりそういう思いでいくためには、やっぱり手段としての働く場だとか、いろんな生活、人生を送るに当たってスポーツや文化などそういった魅力的なものも必要でありましょうし、それから何ととっても大事なことは、ここに暮らし続けていきたいということは、仙台の魅力がもっともっと増し加わっていく、あるいは仙台のことについて、子供たちもその歴史や文化や自然、風土、そういったものをもっともっと知る必要があるんじゃないかなというふうなことなどあって、そういうことの育みの中で、先ほどのようないろんな手段が必要になってくると思うんですが、その中でひとつ大きいのは、4ページ、5ページにもあるし、担い手にもあるんですが、市民と企業ということが行政のほかに語られているんですが、実際に市民って一体だれなんだろうかなということがもっともっと鮮明に意識づけられないと、漠

然とした市民という捉え方では、このプランは多分構想はいいんですが、10 年計画に落とし込んだときに市民って一体だれなんだろうかという、先ほど町内会の話もありましたし、NPOの話もありましたし、それから学生の話もありました。その市民の捉え方をもっと鮮明にする必要があるということ。もうひとつ、企業は組織としての企業もありますがそこに働いている人たちもいるわけです。市民であり企業人としての位置づけ、そういったものも、企業というのも漠然として企業という言葉だけでとらえられない、鮮明に概念をとらえておかないと、まちづくりのパートナーシップとか担い手といった場合も、漠然とした概念になってしまうおそれがある。しかもその企業の中にも、長年仙台で商売をし続けていく企業もあれば、おいしい経済情勢のときだけ来て、そうじゃなくなったらどんどん仙台から立ち去るという企業も中にはあるわけです。それも企業です。ですからそういう企業というものを鮮明にとらえて、私たちはどういうまちにしたいのか、企業の役割はどうなのかということを、市民と同様に的確に、鮮明に、ここで十分とらえていかないと、基本構想で目指す都市像が 10 年計画では実現できないことになる、役割分担、担い手と思いますので、そういったことを是非議論しながら、いい計画をつくっていければなということがひとつ。

それから、2 点目は、ここに 100 万市民を代表している 20 数人おられる中でも、こんなに議論百出しているわけですから、100 万の市民の方々に、この資料 10 を見ますとスケジュール的にはまだそういうチャンス、意見を聞く機会が、すき間がありそうなので是非市民の皆様にも、これがプランできたときに突然ふってわいた話じゃなくて、ああ、そういえば私たちにも問いかけあったね、私も意見出したねと、すべてが実現するわけじゃないけれども、市民主体のそういう計画づくりに参加できる機会があったねということや、本当に質的にも意見を聞きたいので、是非この資料 10 のスケジュールを見ると可能性があるんで、市民の声を是非聞く機会を空けていただいて、総合計画の最終的なものの中にそれを吸収できる機会を提供していただければいいかという提案をしたいと思います。

以上です。

大村虔一会長

ありがとうございます。

今後のほうのことですが、市民の声を聞くという聞き方ですが、なかなか漠然と聞くのも難しいから、例えば今日の資料 11 にあるような論点何かを上げながら聞くとか何かしなきゃいけないですね。

ただ、先ほどの市民にわかりやすくという話でいうと、まだ資料 11 は余りわかりやすいとは、これは言うとも怒られちゃいますけれども、言えないので、ちょっと少しわかりやすくしなきゃいけないかもしれませんが、事務局、そんなことができますでしょうか。

折田総合計画課長

意見を聞くということに関しましては、今ご指摘のありましたように全市民ということとで何とかやりたいと思います。あと全市民となりますと媒体が限られておりまして、

市政だよりというのが、我々が 100 万市民に対してメッセージを伝えるときに使う一番大きな媒体でございますので、その媒体を使わせていただきたいと考えております。

これからの資料 10 のスケジュール観を見たときに、どのタイミングでやるかということと考えますと、1月の市政だよりであれば、今から作業をすれば何とか間に合いますので、1月の市政だよりでご案内をして、それで1か月間ぐらい意見募集の期間を設けて、その結果を取りまとめまして、第3回目の審議会にちょっと間に合わない可能性があります、第3回の審議会それから起草委員会の3回目、審議会の4回目あたりに結果をお示しして、その上でご議論をしていただきたいと思います。

それから、今ありましたこの資料 11 の記述がわかりづらいということは申しわけございません。

大村虔一会長

余り失礼なことを言いまして……

折田総合計画課長

いえいえ、申しわけございません。それはごもっともだと思いますし、実は市政だよりの紙面というのは非常に限られた紙面でございますので、この内容をより簡単な言葉で誤解のないようにコンパクトにまとめるという非常に難しい作業がございまして、ちょっと事務局だけだとなかなか難しい。我々どうしてもこういう文章をすぐ書いてしまいますので、できましたら委員の皆様の全員というわけではないんですけども、市民に向けて発するときこういう表現が適切かどうかということで、非常にタイトなスケジュールになるかと思うんですが、ここ1月の間で是非そういったアドバイスをいただけると非常に助かると思うんですが。そこは会長に一言……

大村虔一会長

いやいや、私もわかりにくく話すのは大変自慢なんですけれど、わかりやすく書くのはなかなか難しいので、それじゃちょっとどなたかにご相談をさせていただいて、そして何らかの形でそれを聞いてみましょうか。

いかがですか、皆さん。時間があればということで、何とか1月に間に合えばというお話でもありますので、そうしたらどなたにその辺をお願いするかは私にお任せいただいていいですか。私に権限があって、あなたと言うかもしれませんのでよろしくお願い申し上げます。

それでは、そのほかのご意見をもう少しいただきたいと思います。

どうぞ。

菊地昭一委員

4番目の市民主体の都市計画ということで、ちょっと気になるのは先ほど財政の問題もあって、非常に財政も厳しい中で総花的にならないような表現が必要で、例えば今、都市計画道路という大変事業費のかかる道路の見直し作業を進めていまして、恐らくこ

これは都市計画道路をストップされれば市民からは大きな不満の出る施策なんです。でもこれをやらないと、恐らくこのままの財政でいったら、いろんな総花的にやろうといったときに必ず足かせになるんで、その辺、市民にも言いにくいこともしっかり、ある意味では構想の中で何らかの形で示しておかないと、そういう意味での市民の協力がないと、いいことばかり言ってもできないことがいっぱい出てくると思うんで、その辺はどこかに基本構想の中に、これからの将来を見据えたときに、こういうことも市民に言いにくいことも言わなきゃならないみたいな表現を入れておいたほうはいいかなと思いましたので、あえて言わせていただきました。

大村虔一会長

ありがとうございます。

ほか、いかがでございましょうか。

どうぞ。

内田幸雄委員

一応PTAという立場で今回席を持たせていただいておりますけれども、とかくPTAというと、やはり先ほどもどなたかおっしゃっていましたが、声が大きいとかそういったところに目が行くんですけれども、PTAの8割9割はいわゆるサイレントマジョリティ、静かな視点で物言わぬお父さんお母さんたちも結構いるわけなんです。学校教育なんかを見ていたときにも、そういうお父さんお母さんが、子供たちが安心して生活できる環境というのはどういうことなのかなということをすごく思います。テレビドラマなんかでもモンスターペアレンツなんていう言葉が非常に取り上げられていますけれども、じゃあみんなモンスターペアレンツなのかというと、モンスターペアレンツは実は少ないわけであって、それから普通の人たちが、例えば30分で理解できる事柄が2時間、5時間かからないと理解できない人はモンスターペアレンツではないわけですよ。モンスターペアレンツというのは、どんな対応をしても、3日4日かけても1週間かけても理解されないからモンスターなんで、それは極めて異例な視点だろうというふうに思っています。

そういう意味では、こういう構想の中でも先ほど市民というのはだれを指すのかという話もありましたけれども、物言わぬ市民、物言わぬ親たちが安心して子供を育てていけるような環境というのをどういうふうにつくっていったらいいのかなということが、自然と享受できるような構想をつくっていかれたらいいなというふうに思っています。

私自身、仙台出身ではなくて、足かけ20年になりますけれども、だからこそ逆に仙台ということをいろんな形で見てきました。調べていくと新しいものというか、仙台発祥のものとか、先ほどからずっと出てきています自然も含めたさまざまな資源というものがたくさんあるんですけれども、案外それが自然な形で学校教育の中で見ることに、知ることができない状況にあるんです。ですから、そういったところなんかも全体構想の中で、また生活をしていく上で自然な形で知ることができるような、普通に生活していることが、普通に仙台を愛していくことができるような構想というのをつくっていかれた

らいいのかなというふうに思っています。

先ほど、阿部先生も障害者福祉計画のほうで話されていましたが、教育基本計画というんですか、その教育委員会のほうの計画も 12 月 4 日から、私も声をかけられていて参加させていただく予定になっておりますけれども、そういったところでもこのようなことをお伝えしながら、ここの総合計画としっかりつながったものを考えていければというふうに思っています。

以上です。

大村虔一会長

ありがとうございました。

もうお一方お手が挙がっていましたね。

どうぞ。

大草芳江委員

今ちょっとお話を伺っていて、自分もすごく共感する点というのがひとつあるんですけど、先ほど市民に対してどうやって意見を聞くかというお話がありました。自分がひとつ思ったのは、子供たちにも聞くようなことをしたらいいのかなというふうに思ったんです。なぜかという、先ほど地域に愛着を持てるような形でというふうなお話がありましたが、自分も含めて仙台という土地は非常に転勤族が多い土地で、もしかすると小学校のときに自分たちの地域を学ぶという学習もするかと思うんですけど、そういったことをしないまま途中で仙台に移ってきちゃったというタイプの人間はやっぱり多いと思うんです。

そういった中で、やっぱりせっかく自分たちが住んでいる土地だから、自分たちの土地のことを知りたいなというふうに思っても、なかなか例えば今日のお話でも仙台の魅力、資源というお話がありましたけど、やっぱり初めて聞いたなという部分が多いなという印象なんです。自分としてもやっぱりこの地域というものがそもそも何かということを知りたいなということで、今ずっと活動をしているわけなんですけど、それでもやっぱりなかなか、それこそ自然に知る機会が非常になかったという点は、自分だけではなくて周りの同学年の人たちを見ていると非常にそう感じていたので、ですから例えばひとつ先ほど意見を子供たちに聞いたかどうかという話も、子供から実際に意見を聞きたいという目的よりかは、仙台には例えばこういう資源があるよとか、逆にこういった課題があるよということ、小さなときから自然な状態で受けるような形があれば、またそういった意識で自分たちの地域を見たときに、だったら自分だったらこうしようとか、もっと自分だったらこういうことができるんじゃないかなという、それこそ市民主体の意識というところが芽生えるのかなというふうに思うんです。

ですから、今回の基本構想、基本計画の中でも小さな段階、それは大学生ももしかしたら含めてかもしれませんが、せっかく学都仙台ということで学生さんがいっぱい集まる都市ですから、そのときにやっぱり自分たちの地域というものと何か関係性を持てるような、また自分たちの地域の資源であったり、課題というものを知れるような、

そういった取組が含まれると非常にいいんじゃないかなというところが、自分が強く思うところですよ。

以上です。

大村虔一会長

ありがとうございました。

今の子供とか学生とかいう視点、先ほどのやつにつけ加えたらという点、ご検討いただきたいと思います。

ほかにいかがでしょうか。大体……どうぞ。

小野田泰明委員

僕は起草委員に指名されてすごくブルーなんですけど、多分これだけ豊かな議論をされて、多分、私以外に経験豊かな先生方いらっしゃるんで杞憂だとも思いますが、起草委員が起草して出した次の会のときに、何だ、豊かな議論が全然縮減されているんじゃないかということをおしかりを受ける前に、ちょっとエクスキューズというか、少しだけこれをまとめるときの問題点を少し私なりにちょっとだけお示したいと思うので、皆さんも一緒にお考えいただきたいというふうに思います。

ひとつは、国の施策と市がやるべきことというのが非常に混在してまして、今、先生方がおっしゃった話というのはかなり大きな話で、本来はもしかすると国が先導してやるべき、制度を変えないとやれないような問題もかなり含まれていると思うんです。だからその中で、市がどこまでどういうふうに形を持ってきっちりやれるかというあたりで、多分議論がひとつあるかなと思っております。要するにその辺が食い足りなくなるんじゃないかなと思って、そのお知恵を拝借したいということなんですけど、その辺を是非次回お考えいただけると私も助かると思います。

それと2番目、今、平成10年の前回のマスタープラン、総合計画を見ていたんですけども、新しい交通体系をつくとか百年の杜をつくとか、確かにできたなというのは幾つかあるんですけど、できていないのもいっぱいあって、そのほとんどが経済なんですよね。都市に新たな活力を生み出す新産業を振興するとか、新たな雇用を積極的に生み出すとかという。恐らく経済、マーケットとどう向き合うかというのは自分だけでやれないことなので、そのあたりとどうこの総合計画がリンクすべきなのかと。そこら辺はどんなにこの意見をうまくまとめても多分食い切らないというか、うまく解決できない問題だと思うので、先ほども間庭さんから企業の話が出ましたけれども、そのあたりを是非お知恵を拝借したいというか、そこも恐らく欠けるところだと、もしくは提案するけれども是非もんでいただきたいと思うところなので、是非皆さんお考えいただきたい。

ちょっとだけ付け加えておきますと、先ほど西大立目さん、競争社会からの脱却だと、僕も生活者として全くそうなんですけども、ただ大学でこき使われている身としては全く逆で、清華大学とかいろんなところに飛ばされると、すごい設備投資しているんですよ。今は日本の大学は威張っていますけど、これ多分5年とか10年すると、あっという

間に違うことが起こる。そうすると世界を飛び回っている富が、この仙台という都市を素通りしてということに、そういう競争は関係ないと、もうちょっとちゃんと生きろということかもしれませんけれども、僕も家庭人としては、子供の親としてはそう生きたいんですが、やはり大学人としてはそれとどう立ち向かっていくかという戦略を持たざるを得ないと、嫌々ですけど。多分、市の皆さんも市の運営ということを考えると、何らかのそういうものが必要で、それをどう考えるかと、優しく生きようよという話ではなくて、いい悪い別にして我々が向き合わざるを得ないと、それをどう計画の中に入れていくのかというあたり、是非お知恵を拝借したいと思います。

それから、3点目、実効力ある施策という、総合計画には非常に相矛盾する文言が入っていてこれ困っているんですが、そもそも総合計画というのは大きな理念で、ひとつの個別のタクティクスを扱うものではないんですけども、でも実効力がなきゃいけないという、ある種、論理矛盾ですよ。その中で何ができるかという、今、先生方の話を聞いていて思ったのは中間集団です。町内会であったりNPOであったり、そういったものを活性化していくことで実効力ある、あと僕は個人的には学校の再生というのは非常に効いてくるんじゃないか、2週間前イギリスですずっと調査していたんですけども、イギリスは300億ポンドかけて全部の中学校をこれから改装するんですよ。中学校が地域の核だから。中学校にコミュニティ支援の役割も与えるんです。順番に、それを民間資金を活用してやるんですけども、そういうのを考えると、学校とか町内会とかNPOとか、そういう資源をどう活用するのかという具体的なアイデアも少し盛り込んだほうがいいというふうに思うのですが、そうすると総論賛成だけ各論反対みたいな話があって、おれの話が入っていないとか、いろいろな話になるので、そこら辺もどうテーマづけて看板として施策を上げるかというあたりを、是非、先生方のお知恵を拝借したいと思っております。

それで4番目、一番最後になりますけれども、先ほど市民の意見を聞くというお話がありましたが、一番最初に大滝先生からもお話あって、幾らここで議論しても市民の支援を受けなければ全く何の意味もないと。しかも戦略性を持つという、選抜するということは、市民の支援を受けにくいというか、非常に受けづらい危険性があるものをどう市民に還元していくのか、それについては是非事務局に真剣に考えてほしいと。

市政だよりで意見を集めましたぐらいのものでは多分解決しないと思っていまして、恐らく中間のパブコメ、制度としてはパブコメありますけども、ああいう形式的なものじゃなくて、もうちょっと例えば仙台メディアテーク全館借り切って議論をするとか、1階のところで議論してそれを生中継してとかするぐらいの、それぐらいの勢いで、じゃこの市がどうあったらいいのかというのを真剣にみんなが考えるというぐらいのイベントというか、そういうものと絡んだ積極的な位置づけがあれば、ここに集まった先生方もそういう意見を練る意義というか、よし、それをやるんだったら本当に踏み出してやろうと、そういう意義と能力をお持ちの先生方がせっかくお集まりになっているわけですから、是非それは踏み込んで活用していただきたいというふうに、ちょっと起草委員としてびびっていますので予防線を張っておきますけども。すみません。よろしくお願いします。

大村虔一会長

いやいや、起草委員の方、大変ご苦労さまですが、たたき台というのはたたかれるのがひとつの使命でありますから、ひとつよろしく願い申し上げたいと思います。

それで時間がもう随分過ぎてしまったんですが、まだご発言なさらない、女性の方に多いと言うと怒られるかもしれないけど、足立さん、阿部初子さん、佐竹久美子さん、鈴木由美さん、何かまだご発言いただいていないような気がするんですが、何かございましたらば、ひとつどうぞ、一言。

どうぞ。

鈴木由美委員

非常に今日の議論の中で白熱している部分、この仙台市が抱える大きな問題と課題が山積しているのを、本当に皆さんのお話を聞いていて非常に貴重だとは思ってはいるんですけども、実は本当にもう目の前に差し迫った大きな問題ばかりが非常に、今、目の前で議論されているなど、私自身はちょっとこの場において感じておりました。

実は、この資料 11 の中にも入っておりますように、私、環境の面から来ておりますので、地球環境の温暖化の問題については、ここに最重要課題のひとつとなっているときちんと明記されているわけなんですけど、実際この構想のたたき台の中にはそれが一言もというか、大きくとらえられておりませんで、これをどういった形でこのたたき台の論点の中に盛り込んでいくんだらうかというところが、ひとつ疑問だったところなんですけれども、確かに、今、目の前にある大きな問題、それぞれ解決しなければならないと思うんですが、それは例えば 10 年 20 年先の考え方という方向性に立って検討できる問題かと思います。

ただし、この環境の問題に関しては、10 年 20 年というスパンではなく、やはり最低でも 100 年、大きく考えれば 1000 年というような形で本当は議論していかなければならない問題なのですが、なかなかその点について皆さん身近に感じておられない部分も多分にあると、私はちょっと今感じておまして、それをやはりこの基本構想の中には環境という問題から考えたときの私たちの暮らし、例えば仙台が拠点となった場合に物資が流入してくるときの、今、交通量の問題ですよね、その大気汚染に関する問題、それから仙台市が開発している部分の森林の伐採に関する緑地の減少の問題、いろんな問題から環境というものについては私たちの暮らしとかかわってきています。ただ直接的にすぐ目の前に差し迫った問題としてなかなかとらえにくいという点がありますけれども、これは是非長い目で見た、最初に書いてありました 21 世紀中葉にかかわる計画の中に、是非大きな目でとらえた環境というもののこの仙台市の総合計画というものを策定していただきたいなというふうに思います。

大村虔一会長

ありがとうございます。

先ほどの中には西澤さんも本当は入っていました。女性じゃありませんが。

どうぞ。

西澤啓文委員

すみません。私は、逆に先ほど小野田先生おっしゃっていましたが、仙台市だけでできるようなことというのは、ちょっと気になっていたことがあったので発言をさせていただきます。

この中の6ページに、市民生活というところで「刑法犯や何かの犯罪件数が減ってきて、ただ重大な事故、事件は起きるんじゃないかと懸念している」とあって、「市民の防犯や消費生活、食の安全に関する関心が高まってきている。」とあるんですけども、実は私どもの地域の話を申し上げると、立町というまちなかの地域なんですけど、小学校から50メートルのところに広域暴力団の事務所がありまして、そのところが怖いということで、地元の連合町内会会長さん方を中心にして原告団を結成いたしまして、住民が数百人規模で原告団になり、そして地域からお金も出し合って、100万単位のお金を出しまして、今、訴訟を行っております。これは市民が自発的にやらざるを得ない活動になっていまして、側面的には市のほうのご協力はいただいておりますけれども、資金援助等があるものではありません。しかし、それがあって、確かに怖い、それがもし今回、私どものほうで訴訟の中で、子供たちの安全、地域の安全のためにそういうものを追い出したときに、もしかしたら仙台地域内のほかの地域に移っていくかもしれない、そうすると一地域の問題ではなくてももう全市の問題だと思えますし、こういうことはその辺にたくさんあると思えます。

そのこととあわせて、こちらの4ページにあります共生社会、コミュニティといったものも絡んでくるんですけど、立町地区、外国の方々もたくさんおられます。隣近所とおつき合いもない、そういう意味では危険というものに対して、普通の生活の安全に対して危険があるというふうに感じている方もたくさんいらっしゃる地域になっている。これも多分、今後どんどん広がっていくだろうと。

そうしたときに、仙台としてのそういうものに対する取組というものが、確かに僕も町内会長もしていますけれども、町内会というものがまだ本当に力がないわけではないもんですから、そういうものと一緒になって、そういうものに取り組むというひとつの目標としてそういうものに取り組んでいただくというようなこともあると、ここの第2のほうの基本構想のたたき台の安心な暮らしというところにもものすごく寄与していくと思えますし、仙台というまちがもっとグレードアップしていくんじゃないかなと思っております。

そんなことを是非織り込んでいただければありがたいと思えますし、もう1点は、最後の東北との関係というところで、「東北の浮沈は本市の活力に大きな影響を与える」というふうに書いてあり、「ともに連携協力していくことが重要である」と書いてあるんですけども、今まで僕も10数年、青年会議所とかさまざまなところで地方分権ということをやらせていただいていた中で、必ず仙台市以外の方から言われることは、仙台ばっかりという、それから仙台の人はいいよなということを言われます。ですから仙台がやってやっているという意識を捨てて一緒にやる、ほかに人たちができないけど

仙台がやれるので、これはやりますので皆さんも使ってくださいというような、そういった視点での取組というのを是非していただきたいなと思っておりますのでお願いしたいと思います。

以上です。

大村虔一会長

ありがとうございました。

もう 30 分も超過してしまったんです。皆さんの話を聞いていると、これまだまだあると思うんですが、あと 3 人いらっしゃいますので一言。なければ次回ということで。

足立千佳子委員

すみません、私はちょっと遅れてきたので今日はしゃべらないで帰ろうかと思って。遅れた分しゃべろうかなと、一言だけ。

やっぱり物語があるような、そういう計画になったらいいなというのは感じました。抽象的なんですけど、例えば子育て、教育、人づくり、先ほど皆さんからお話が出ていたんですけども、どんな仙台市民を求めるのか、逆に言えばどんな仙台市になるからこういう人たちと一緒に暮らそうねとか、そういうところで何かストーリーが出てくるといいなというふうに思っていました。どんな仙台で暮らす私たち仙台市民になっていこうというようなメッセージがあると、大多数の沈黙の市民たちにも、ああ、私たちがいていいんだと思えるような仙台になったらいいかなと。そういう人たちがまたまちづくりの担い手に自然となっていけるようなストーリーが見えてくるといいかなというふうに思っております。

その自然となってくる担い手というところで、都市計画の中での交通計画のあり方みたいなのところも、やっぱり実はちょっと、今、おくれてきたのは、東北大学の留学生の皆さんと公共交通をどうしたいみたいなお話をできていて、やっぱり留学生、使いたいんだけど使えるバス路線ないよ、自転車のほう速いんだよ、三条町から東北大、自転車速いんだよというふうな話とかというので、やっぱり実際のニーズとその現状が違っているようなこととかというのがたくさんあるので、やっぱりそういうのもどんどん吸い上げて改善できていくような、そういうシステムができてきたらいいかなと思っております。

すみません、すごくかいつまんだお話でした。

大村虔一会長

ありがとうございます。

それじゃ阿部委員、ございますか、初子委員。

阿部初子委員

仙台って本当に、先ほど向かい側も方もお話ししたように、海のところから山のところまで広い、でも本当に中心部のところがコンパクトというふうな、そこがやっぱりコ

コンパクトなところにおいて、私、保育士なんですけど、保育の課題についてもなかなか広げ切れない、そのことが海、山も生かせるようなものにならないものかというふうなのが漠然とあるということがひとつと、あと先ほど皆さんの意見を聞くというところに、本当にすばらしい先生たちいっぱいいるので、やっぱり分科会みたいな形で私はどこか真ん中に持ってきて、本当にそれぞれのさまざまな分野のところに意見を言い合える、そういった分科会を持って、そしてそこからみんなの意見でつくり出す、そういったものができたら、よりそのところには本当に子供も人権というか、子どもの権利条約を持っているということの中で意見表明できるようなそういった部分も入れ込む、そういったことができていったらすばらしいというか、また一歩進んだまちづくりになっていくのではないかなということで、皆さんの意見を聞きながら思っているところです。

大村虔一会長

ありがとうございます。

それでは佐竹さん。

佐竹久美子委員

それでは、最後になるかと思いますが、私のほうからはコンパクトなまちづくりという観点の、今建築中の地下鉄東西線、27 年開業を目指しまして事業は順調にいつておるようですが、その沿線のまちづくりについて、今もう特別委員会というのもありまして、今皆さんで検討はしておるんですが、各駅の特色それぞれございますので、その特性を生かしたまちづくりを各駅どのように進めていくかというのも、ひとつの今後の仙台市のまち全体を考えるのに非常に大事なことだと思いますので、その点も是非考慮していけたらなと思っております。

あとは、人口減とか少子高齢化とか、今までちょっと私どもみんなが経験したことないような時代になっていくんだと思います。それを身近な生活の中で市民が仙台市民として新しい時代をどう生きていったらいいのかという市民の意識を変えさせるものというか導いていくもの、そういうような、それが市民にとってとてもわかりやすい言葉で提示していけたらなと、このように考えました。

以上です。

大村虔一会長

ありがとうございます。

最後のほう、はしょらせてしまいましたが、それでも 35 分か 40 分ぐらい超過してしまいました。議長の不手際でございます。でも最初の会でありますので、皆さんどんなふうにもこの事務局がつくったたたき台を見てどんなことを言われるのかというのは、やっぱり一言聞きたいという思いで、大変時間をオーバーしてしまって申しわけございません。まだまだいろんな意見があると思いますが、一応ここで止めさせていただきたいと思います。

今日皆様から出された意見を踏まえまして、事務局のほうで今日の意見を少し整理を

していただいて、起草委員会を早々に開いていただいて、そこで次のたたき台という、小野田委員からはかなりブルーだという話でありましたが、クリエイティブな仕事でありますから、次の委員会をどう活性化させるかというのは皆さんの腕にかかっているということで、ひとつどうぞよろしくお願いしたいと思います。それができたときに次の委員会にしたいと思います。

(6) その他

大村虔一会長

それでは、最後に6番にその他というのがございますが、これは何か皆さんからございますか。

どうぞ。

石川建治委員

すみません、私だけだったら失礼なんですけれども、今日の資料なんですけれども私のところに届いたのが昨日だったんです。大変事務局が忙しいのはわかるんですが、できるだけ、タイトな日程なので、今後の会議に臨むときに十分読み込んでいきたい、疑問に思ったことはできるだけ自分なりの調べもやりたいというふうに思いますので、今後の資料の送付についてはできるだけ早目に送っていただきたいなという要望です。お願いします。

大村虔一会長

これは事務局、大変なのはわかります。なるべくいい点数になるように努力しているからどんどん時間がかかるわけですが、委員のほうでも少し早くいただければ読む時間もありますので、ひとつよろしくをお願いしたいと思います。

ほかにございましょうか。

(なしの声あり)

大村虔一会長

それでは、本日の議事は以上で終了でございます。

事務局のほうで最後に何か連絡事項がございましたらお知らせいただきたいと思います。

金集総合計画課主幹

事務局から3点ほどご連絡がございます。

ひとつ目は、次回の審議会の日程でございますけれども、今後の日程といたしましては、12月から年明けにかけて2回程度起草委員会を予定しておりまして、そこでの議論の結果を踏まえまして、1月下旬から2月にかけて第3回の審議会を開催したいと考えております。後日、事務局から電子メールなどで委員の皆様にご都合を伺いまして、日程の

調整をさせていただきたいと考えております。

2つ目は、お帰りの際の建物の出口ですが、第1回目と同じく北側の玄関をお通りいただくこととなりますのでよろしくお願いいたします。

最後に、本日お出しした軽食でお食べになっていないものにつきましては、よろしければお持ち帰りいただきたいと思います。なおテーブルにお持ち帰り用の袋を用意してございますのでご利用ください。

以上でございます。

7 閉会

大村虔一会長

それでは、以上をもちまして本日の審議会を終了いたしたいと思います。

長い時間どうもありがとうございました。